

215-314

日本地球化学会ニュース

No. 116

1989. Ⅲ. 10

1989年度日本地球化学会春季シンポジウム

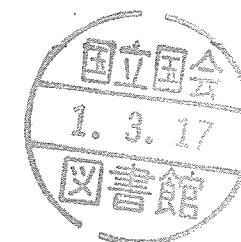
主催 日本地球化学会

日時 1989年4月10日(月) 10:00~17:15

会場 東京大学山上会館(地図参照)

(電話03-812-2111内線2343)

コンピーナー 線技邦彦・高野穆一郎・小倉紀雄



プログラム

一般講演(10:00~12:00)

1. 固相・水溶液相間の希土類元素分配係数にみられるテトラド効果 10:00~10:20
鍵裕之・増田彰正・高野秀路・堂本幸輝(東大理)
2. 温泉の泉質変化とその鉱物沈殿形成への影響 10:20~10:40
佐々木信行(香川大教育)
3. 金属鉱床の元素地球化学 10:40~11:00
—A Global System Control—
梶原良道(筑波大地球科学)
4. 都市における物質循環の機構の解釈 11:00~11:20
半谷高久(MV研) 秋山紀子(青山女子短大)
5. 沢水中のBr/Cl比の変化と土壌の役割 11:20~11:40
鶴見実・一國雅巳(東工大総合理工)
6. N_2O および NO_3^- の窒素同位体比と生成速度からみた N_2O の地球化学的循環 11:40~12:00
吉田尚弘・平野光浩(富山大理)

ポスターセッションおよび昼食 12:00~14:00

特別講演(14:00~17:15)

1. ウラン・トリウム系列核種と海洋での物質循環 14:00~14:40
原田晃(北大水産)

2. 大気中の微量気体の挙動と地球環境への影響

- 巻出義紘(東大理) 14:40~15:20
3. 鉛同位体による日本の青銅文化の流れ 15:20~16:00
馬淵久夫(国立文化財研)
- 休憩 16:00~16:15
4. 地球化学に望む 16:15~17:15
浅田敏(東海大)

ポスターセッション(12:00~14:00)

- P-1. 南極水素の総合解析 角田晋也, 綿坂邦彦(東大教養)
- P-2. 接触変成作用における流体の移動 —安定同位体による新しい証拠—
有田陽子, 和田秀樹(静岡大理)
- P-3. 地球化学関連有機物分析への熱分解ガスクロマトグラフィー・質量分析法の応用
山本修一(創価大・教育) 津田文治, 石渡良志(都立大・理)
- P-4. 都市大気中の低分子ジカルボン酸の季節変化
河村公隆, 幾島浩一(都立大・理)
- P-5. ラドン濃度変化と地震
五十嵐丈二, 脇田宏, 野津憲治, 佐野有司(東大・理)
- P-6. ICP質量分析計による地球化学試料の分析

2. 管理費		
2. 1. 庶務費	200,000 (	200,000)
2. 2. 会議費	81,040 (	200,000)
2. 3. 通信費	1,200 (	30,000)
2. 4. 旅費	225,000 (	300,000)
2. 5. 選挙費	0 (	0)
2. 6. 雑費	4,490 (	80,000)
2. 7. 会誌保管料	0 (	171,600)

小計 511,730 (981,600)

3. 予備費	0 (	500,000)
4. 基本財産充当引当金	0 (	500,000)
5. 次年度繰越金	 (	4,548,400)

計 6,491,455 (18,720,000)

1989年度予算案

収入の部			
科目	金額 (円)	前年度予算額	増減
1. 会費収入	6,800,000 (6,600,000)		200,000
2. 刊行物売上	4,600,000 (4,600,000)		0
3. 広告料	300,000 (200,000)		100,000
4. 助成金	1,300,000 (1,300,000)		0
5. 雑収入	20,000 (20,000)		0
6. 前年度名簿積立金	300,000 (0)		300,000
7. 前年度基本財産充当引当金	500,000 (500,000)		0
8. 国際会議預金利息	0 (0)		0
9. 前年度繰越金	9,500,000 (5,500,000)		4,000,000
計	23,320,000 (18,720,000)		4,600,000

支出の部	科目	金額（円）	前年度予算額	増減
1.事業費				
1.1.出版費		9,800,000（ 9,650,000）		150,000
	会誌等印刷費			
		7,800,000（ 7,700,000）		100,000
	編集費	1,200,000（ 1,200,000）		0
	発送費	800,000（ 750,000）		50,000
1.2.行事費		500,000（ 300,000）		200,000
1.3.学会賞経費		50,000（ 40,000）		10,000
1.4.委員会活動費		150,000（ 100,000）		50,000
1.5.名簿積立金		0（ 300,000）		△300,000
1.6.名簿作成費		600,000（ 0）		600,000
1.7.事務委託費		1,600,000（ 1,600,000）		0
1.8.会員業務郵税				
		200,000（ 200,000）		0
小計		12,900,000（12,190,000）		710,000

2.管理費			
2.1.庶務費	200,000 (	200,000)	0
2.2.会議費	300,000 (	200,000)	100,000
2.3.通信費	30,000 (	30,000)	0
2.4.旅費	600,000 (	300,000)	300,000
2.5.選挙費	80,000 (	0)	80,000
2.6.雑費	80,000 (	80,000)	0
2.7.会誌保管料	171,600 (	171,600)	0
小計	1,461,600 (	981,600)	480,000
3. 予備費	500,000 (	500,000)	0
4. 基本財産充当引当金			
	500,000 (	500,000)	0
5. 次年度繰越金			
	7,958,400 (	4,548,400)	3,410,000
計	23,320,000 (18,720,000)	4,600,000	

編集者 鈴木 淑 〒305茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所地球化学研究部 電話 0298 (51) 7111
 発行所 日本地球化学会 〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル(4F)
 日本学会事務センター内 電話 東京 03 (817) 5801

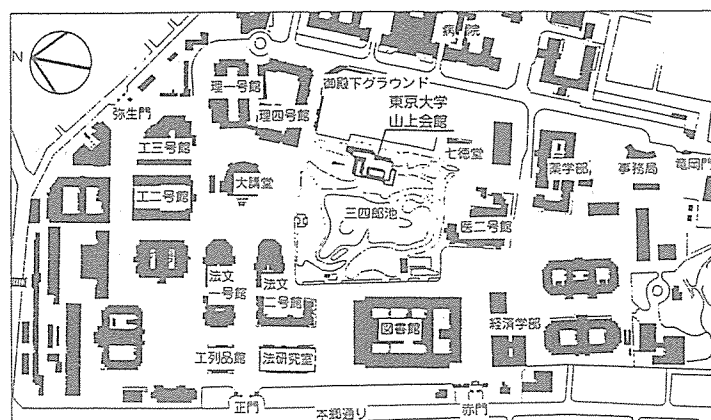
—微量元素分析のための導入法の開発
平田岳史, 清水洋, 増田彰正 (東大・理)

懇親会 (於東大山上会館地階食堂)

17:30~19:00

懇親会に参加ご希望の方は同封の葉書にてシンポジウム世話人 (下記) までお申込み下さい。

山上会館位置図 (本郷構内)



東京大学への経路

地下鉄: 丸の内線「本郷三丁目」下車

千代田線「湯島」, 「根津」下車

バス: 「東大正門前」, 「東大赤門前」, 「湯島四丁目」下車

スクールバス: 御茶ノ水, 上野各駅より 「東大病院前」下車

シンポジウム「隕石と太陽系の起源」

主催 科学研究費補助金・重点領域研究
「原始太陽系と惑星の起源」総括班

共催 日本地球化学会

日時 1989年4月11日 (火)

会場 東京大学山上会館 (東京都文京区本郷7-3-1)

Symposium of Meteorites and the Origin
on the Solar System, 1989

(10:00-12:25)

The mapping observation of carbon chain molecules in
the Taurus molecular cloud-1 (TMC-1)

Y. Hirahara, H. Suzuki, S. Yamamoto, S. Takano, S.
Ishikawa, M. Ohishi, A. Masuda and N. Kaifu

Informations given from structure of organic polymer
in carbonaceous chondrites

T. Murai

Refractory precursors of Allende chondrules: further
evaluation of fractionated and unfractionated REE and
alkali metals

N. Nakamura, H. Matsuda and S. Noda

Chemical characteristics of magnetic, stony spherules
from deep-sea sediments

K. Misawa, S. L. Ma, K. Yamakoshi, K. Nogami and
N. Nakamura

Diffusion coefficients of oxygen in synthesized single
crystal melilites and their implications to the thermal
history of Allende CAI

H. Yurimoto, M. Morioka and H. Nagasawa

Formation of chondrules and matrices of chondrites in
a heterogeneous nebula

H. Nagahara

Condensation in the system Mg-Si-O-H

A. Tsuchiyama

会費 4000円 (当日会場にてお支払い下さい)

申込み締切 3月31日 (金)

申込み先 小倉紀雄

〒183 府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学部

(電話0423-64-3311内線516)

(13:30-15:30)

Development of railgun accelerator for planetary science
experiments at ISAS

M. Yanagisawa, A. Yamori and N. Kawashima

Compositional and structural changes of minerals on
impact processes among terrestrial impact craters,
meteorites and lunar rocks

Y. Miura

Textures and compositions of the clusters of fine
grained minerals and the melt pockets in shock-loaded
chondrites

M. Kitamura, A. Tsuchiyama, S. Watanabe,

Y. Syono and K. Fukuoka

Petrographic evidence for the formation of ureilites by
planetesimal-scale collision of carbonaceous chondritic
material

K. Tomeo and H. Takeda

Nobel gases in meteorites

N. Takaoka

Rb-Sr age of diogenite younger than that of eucrite

K. Takahashi, H. Shimizu and A. Masuda

(15:50-17:50)

Mineralogical records of some activities of the HED parent
body

H. Takeda

Fractionation condition of olivine from chondritic
material

H. Isobe

The Re-Os chronology on the iron and stony iron
meteorites

T. Hirata and A. Masuda

Origin of Zaire cubic diamonds giving K-Ar age
apparently

older than the solar system.

T. Akagi and A. Masuda

La-Ce and Sm-Nd studies of Archean gneisses and
iron-formations from West Greenland and their im-
plications for the earth's early history

H. Shimizu, S. Nakai, S. Tasaki, N. Umemoto and
A. Masuda

Chemical evolution of the mantle in the early stage of
formation of the earth

E. Ohtani

連絡先 〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部化学教室 増田彰正, 清水洋

電話 03-812-2111 (内線) 4349, 4350

「日本地球化学会学会賞, 奨励賞」受賞候補者推薦の募集

応募期限 4月15日 (土)

日本地球化学会授賞規定により, 学会賞および奨励
賞受賞候補者の推薦を募集いたします。

つきましては, 下記ご参照のうえ会員各位のご関係
で適当と思われる受賞候補者をご推薦下さるようお願い
いたします。

候補者の資格:

(学会賞) 地球化学の分野で特に優秀な業績を収
めた本会会員。

(奨励賞) 1954年4月2日以降に生まれた本会正
会員 (学生会員を含む) で, 地球化学
の進歩に寄与するすぐれた研究をな
し, なお将来の発展を期待しうる者。

募集の方法: 本会会員の推薦による。

推薦の方法: 所定用紙に記載した推薦書1通に, 推薦
理由書, 説明資料を添付して4月15日
(土) までに学会事務所へ (当日消印有
効)。

提出先: 〒113 東京都文京区弥生2-4-16

日本学会事務センター内

日本地球化学会受賞者選考委員会

☆推薦書は同封の所定用紙もしくはこれを複写したも
のをご使用下さい。なお, この件についてのお問い合
わせは本会庶務担当幹事 (下記) まで。

〒153 東京都目黒区駒場3-8-1

東京大学教養学部化学教室 高野穆一郎

電話 (03) 467-1171 内線629

FAX (03) 485-2904

日本温泉科学会創立50周年記念講演会開催要項

日本温泉科学会は本年創立50周年を迎えました。記念講演会を下記の通り開催致しますので、聴講ご希望の方は事務局へ御一報下さい。整理券をお送り致します。

1. 日 時 平成元年6月1日(木) 10:00-16:00
2. 場 所 一ツ橋学士会館210号室
〒101 千代田区神田錦町3-28
(03) 292-5931
3. 主 催 日本温泉科学会
4. 後 援 朝日新聞社
5. 講演会
10:10-10:20 開会挨拶
10:25-11:00 福富孝治先生
(北海道大学名誉教授・理博)
地球物理から見た温泉の諸問題
11:10-11:45 矢野良先生
(九州大学名誉教授・医博)
温泉の多目的利用を指向する日本の現状
11:45-13:00 休憩
13:00-13:35 伊東祐一先生
(大阪教育大学名誉教授・理博)
学会創立の前後
13:40-14:20 初田甚郎先生
(京都大学名誉教授・理博)
温泉探しよも山ばなし
14:20-14:40 休憩
14:40-15:15 杉山隆二先生
(岡山大学名誉教授・理博)
温泉の地質構造規制—温泉はどこにどんな状態にあるか
15:20-16:05 野口喜三雄先生
(東京都立大学名誉教授・理博)
火山の化学—噴火予知
16:05-16:10 閉会挨拶
16:30-18:00 記念パーティ(203号室)

6. 申込み問合せ先

〒281 千葉市山王町295-3
財団法人 日本分析センター荒木匡 宛
電話 0434-23-5325



平成元年度海洋科学技術センター所属潜水調査船「しんかい2000」の共同利用公募について

標記のことについて、別紙のとおり公募いたしますので、貴機関の関係各位にこの旨周知方よろしくお願いいたします。ただし、他官庁、関係機関からの利用希望も多数にわたることが予想されますので、採択件数は小数に溜まるものと推定されます。また、漁船・潮流・海底ケーブル・航路上等の問題で、不採択になる場合があることを、予め申し添えます。

公募要領

平成元年度海洋科学技術センター所属潜水調査船「しんかい2000」の共同利用

1. 公募内容

別添資料1に基づいて行う深海調査研究
一応次の海域を対象として予定している
駿河湾(10月~11月)
相模湾(10月~11月)
伊豆・小笠原免島海域(4月~5月, 5月~6月)
南西諸島海域(7月~8月)
日本海(8月~9月)
(参考資料)

平成元年度深海調査研究計画………資料1
海洋科学技術センター所属潜水調査船「しんかい2000」利用規程

2. 申込資格

国・公・私立大学、高等専門学校、国立大学共同利用機関及びこれらに準ずる学術研究機関の研究者、但し大学院生は「しんかい2000」には乗船出来ません。

3. 申込書類

(イ) 潜水調査船「しんかい2000」利用申込書 1通
(ロ) 承諾書(大学院生の場合は推薦書) 1通
(ハ) 略歴書 1通
(各書類とも本所所定のものを使用しますので事前に必要枚数を連絡願います)

4. 申込期限

平成元年2月20日(月)必着のこと

5. 申込先

東京大学海洋研究所総務課共同利用掛
〒164 東京都中野区南台1-15-1

TEL (03) 376-1251 (代) 内線284・308
FAX (03) 375-6716

6. 審査

本所「しんかい2000」共同利用連絡委員会においてとりまとめ、最終的には関係各省庁で構成する深海調査研究推進検討会を経て深海調査研究委員会にて決定する。

7. 採否の決定

平成元年3月

8. その他

「しんかい2000」共同利用連絡委員会委員名簿
なお、潜水調査船および母船等の詳細については、下記に問い合わせ下さい。

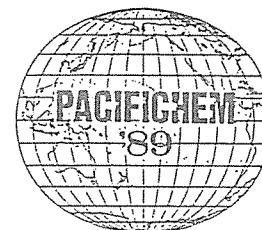
記

海洋科学技術センター運航部運航課
〒237 神奈川県横須賀市夏島町2-15
TEL (0468) 66-3811 (代) 内線343・344

お詫びと訂正

本会名誉会員木村健二郎先生のご逝去を悼む文(地球化学, 22巻2号)の中で私は先生のご葬儀を東京女子大学葬と記しましたがこれは誤りで大学葬ではございません。ここにお詫びして謹んで訂正させていただきます。

一國雅巳



The 1989 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies

Honolulu, Hawaii, U.S.A. ◆December 17-22, 1989

1989環太平洋国際化学会議(ホノルル)について

日本化学会は、アメリカ化学会およびカナダ化学会との共同主催により、1989環太平洋国際化学会議The 1989 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM'89)を、本年12月17日~22日の6日間、ホノルルにおいて開催する準備を進めております。

この会議は、1984年に非常な盛会裡に終了しました環太平洋国際化学会議(PACCHEM'84)の第2回会議です。すでに北米、中南米から大洋州、アジアにわたる21ヶ国の環太平洋諸国の化学会と、二つの化学会連合が公式参加の意志を表明しており、太平洋を囲むこれら諸国の化学者たちの間の学術および技術の交流に大きな役割を果たすものと確信しております。

本会議では角皆静男会員(北大水産)がコンビーナーをする“marine chemistry”のセッションが予定されています。

記

1. 会議の名称

和名: 1989環太平洋国際化学会議
欧名: The 1989 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM'89)

2. 目的

環太平洋諸国の科学者および技術者の化学に関する情報の伝達交流を促進するため、これら科学者および技術者が一堂に会して化学および工業化学の分野における最

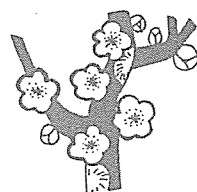
新の研究成果を発表討議する場として本国際会議を開催し、これら諸国の学術ならびに工業の発展と国民の福祉に資することを目的とします。

3. 日時・期間

1989年12月17日(日)~同月22日(金)の6日間(ただし12月17日は夜の開会式のみ)

4. 開催場所

アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市シェラトンホテル



グループ(本部:シェラトン...ワイキキホテル)

5. 主催団体

アメリカ, カナダおよび日本の三国化学会(共催団体:化学関連学協会, 他)

6. 参加団体

ニュージーランド, オーストラリア, パナマ, シンガポール, メキシコ(3学会), ペルー, フィリピン, 香港, チリ, タイ, 韓国, 中国, コロンビア, パプアニューギニア, 台湾, マレーシア, インドネシア, ニカラグア, 南太平洋, アメリカ, カナダ, 日本の21ヵ国化学会ならびにラテンアメリカ, アジアの2化学会連合。

7. 登録料

	事前	当日
A. 本会および化学関連学協会会員	210ドル	280ドル
B. 非会員	280	330
C. 登録者の家族	25	25
D. 学生	25	25

(円貨建て登録料は追ってご案内申し上げます。)

8. 講演プログラム

講演プログラムは, トピックスを設けたシンポジウムと, 10の部門に分類された一般講演とから構成されます。発表言語は英語, 口頭発表のほかポスターセッションも設けられます。

一般講演の口頭発表の発表時間は, 講演15分, 質疑5分が予定されています。

なお, 特別講演として, 12月17夜の開会式当日に1件, 他に2件のPlenary Lecturesが予定されています。

9. 講演申込

専用の申込用紙(Abstract Form)に所要事項を英文で記入のうえ

招待講演にお申込みの方は,

- (1) 申込用紙(Abstract Form) 1部
- (2) 上記コピー 6部

一般講演にお申込みの方は,

- (1) 申込用紙(Abstract Form) 1部
- (2) 上記コピー 6部
- (3) 500~1,000Wordsの詳細要旨Long Abstract, 図, 表等 6部
[この詳細要旨は審査のために必要]

を3月31日(金)(必着)までに, 本会事務局PACIFICHEM'89係までご提出下さい。

申込用紙が不足の折には, 本会事務局に備えてありますので必要の際は本会総務部PACIFICHEM'89担当あて, B5判用紙封入可の封筒に返信先を明記し, 120円分の切手を貼ってお送り下さい。

10. 事前登録および団体旅行申込

事前登録および団体旅行申込用紙は目下準備中ですので追ってご案内申し上げます。

11. 団体旅行

標記会議の本会公認の旅行代理店を近畿日本ツーリスト四谷支店に決定いたしましたのでご報告申し上げます。

参加申込方法につきましては追ってご連絡申し上げますが, 一応の旅行代金見込額を下記に示しましたので, これを目安としてふるってご参加下さいますようお願い申し上げます。(会員および同伴者の方の料金です。)

- A. 本部コース 127,000円程度
(シェラトンワイキキ他, 同等のホテル)
- B. デラックスコース 108,000 〇
(ヒルトンハワイアンヴィレッジ他, 同等のホテル)
- C. ファーストクラスコース 97,000 〇
(パシフィックビーチ他, 同等のホテル)
- D. スタンダードコース 91,000 〇
(アラモアナ, ホリデーイン他, 同等のホテル)

以上は, 5泊7日, 往復航空運賃と2人部屋使用の1人あたりの税込料金です。ホテルでの食事代他個人的な経費は含まれていません。

12. 今後の予定

講演申込締切	1989年3月31日(金)
事前登録および団体旅行締切	1989年10月31日(火) (予定)
暫定プログラム発表	
Chem & Eng. News	1989年8月21日号
化学と工業	1989年9月号(予定)
最終プログラム発表	
Chem & Eng. News	1989年10月2日号
化学と工業	1989年11月号(予定)

年 月 日

日本地球化学会(学会賞, 奨励賞)受賞候補者推薦書

日本地球化学会授賞規程により, 下記の者を日本地球化学会(学会賞, 奨励賞)受賞候補者として推薦します。

推薦者

氏名

印

記

研究題目

(ふりがな)
氏 名

生 年 月 日

現 住 所

勤務先(職名)

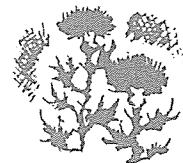
最 終 学 歴

略 歴

添 付 書 類:

推薦理由書(様式自由:A4判横書きで, 2000字程度)

説明資料(論文別刷その他審査の参考となる資料)



第25回 理工学における 同位元素研究発表会

関係諸学協会の共同主催で、標記の研究発表会を開催いたします。この研究発表会の目的は、異なった専門分野の研究者が一堂に会し、同位元素および放射線の利用の技術を中心とした研究、およびその技術の基礎となる研究の発表と討論を行い、各専門分野間の知識と技術の交流を図ろうとするものであります。会員各位におかれては奮ってご応募、ご参加下さることを希望いたします。

会 期 昭和63年7月4日(月)～7月6日(水)

会 場 国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2-3 文部省となり)

発表論文

- (1)内容 それぞれの研究分野において、その専門的成果を得るにいたった放射性および安定同位元素ならびに放射線の利用の技術に重点を置いた論文と、これら同位元素、放射線の利用の基礎となる研究論文とします。研究の内容には、少なくとも一部に未発表の部分が含まれていることを必要とします。

なお、発表は口頭発表とポスター発表とします。

(2)発表申込区分

- ①基礎的データ
- ②放射線測定器・測定法
- ③分析(放射化分析、放射化学分析等)
- ④トレーサ利用
- ⑤照射効果
- ⑥製造・分離・標識化
- ⑦線源・加速器
- ⑧放射線利用機器(ラジオグラフィ、エネルギーの利用、発光塗料等も含む)
- ⑨陽電子消滅、メスバウア効果
- ⑩放射線管理(汚染除去、健康管理、安全取扱、廃棄物処理、運搬等)
- ⑪地球科学・宇宙科学・環境科学
- ⑫安定同位体関係
- ⑬その他

- (3)口頭発表時間 1件15分以内の予定
(原則としてOHP使用)

- (4)ポスター発表F25 今回は特にテーマを設けてお

りません。どの申込区分の応募でも結構です。1件のスペースは90cm×150cm×2枚です。ポスター掲示時間のうち責任時間は1.5時間を予定しています。

発表者の資格 発表申込者が所属する主催学・協会の年会(大会)等の規定または慣例に従います。

発表申込み 所定の申込書(1件1通)によりお申込み下さい。所定の申込書は下記あて請求して下さい。

〒113 東京都文京区本駒込2-28-45

日本アイソコップ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営委員会

TEL (03) 946-7111 (代) 内線261

発表申込締切: 昭和63年2月29日(月) 必着

講演要旨 講演要旨集を発行します。発表申込みがあり次第、所定の原稿用紙をお送りします。口頭発表、ポスター発表とも1件原稿用紙1枚です。

講演要旨原稿締切: 昭和63年4月15日(金) 必着

そ の 他

- (1)フルペーパーの報文集は特に発行しません。なお、日本アイソトープ協会の学術機関誌“RADIOISOTOPES”にはこの研究発表会の発表論文にかぎり、同協会会員以外でも投稿することができます。

- (2)発表申込件数、発表内容等諸般の都合によっては口頭発表からポスター発表に、またはその反対にポスター発表から口頭発表への変更をお願いすることもありますのでご承知おき下さい。

共同主催者 応用物理学会 化学工学協会 金属表面技術協会、空気調和・衛生学会 計測自動制御学会 高分子学会 触媒学会 石油学会 石油技術協会 繊維学会 電気化学協会 電気学会 電子情報通信学会 土質工学会 土木学会 日本アイソトープ協会 日本医学放射線学会 日本遺伝学会 日本鋳物協会 日本海洋学会 日本化学学会 日本核医学会 日本機械学会 日本気象学会 日本金属学会 日本原子力学会 日地建築学会 日本鉱業会 日本質量分析学会 日本写真学会 日本水産学会 日本生化学会 日本地球化学会 日本地質学会 日本鉄鋼協会 日本動物学会 日本農芸化学会 日本非破壊検査協会 日本物理学会 日本分析化学会 日本放射線倍響学会 日本放射線化学会 日本放射線技術学会 日本保健物理学会 農業土木学会 物理探査学会 窯業協会 溶接学会(五十音順)

生命と環境を育む土
第14回 国際土壌科学会議

1990年8月12～18日, 国立京都国際会館
第2次アナウンスメント—予備登録のご案内—

国際土壌科学会議の準備は着々と進んでまいりました。ここに日本土壌肥料学会員および関係各位に第2次アナウンスメントをお届けし、あわせて会議参加の予備登録をお願いする次第です。とじ込みの予備登録申込書(ハガキ)に見学旅行参加、発表希望などの必要事項をご記入のうえ、お早目に予備登録のお済ませください(締切は1989年1月末日に早まりました)。

1. 会議のセッション

会議は、(1)全体会議の講演、(2)シンポジウム、(3)ポスターセッションの3部構成とします。一般発表はすべてポスターセッションで行います。シンポジウムは各部門から提案された下記の45課題について行うこととし、招待論文と公募論文から構成します。

1.1 全体会議の講演 (招待演者)

1. Soil and water management in farming systems with flooded rice (I/IV) Speaker: Zha QI-GUO (PRC)
2. Behavior and effects of exogenous chemicals in soil (II) Speaker: B. YARON (Israel)
3. Role of microorganisms in the protection of the environment (III) Speaker: J. M. TIEDJE (USA)
4. Impacts of intensive plant nutrient management on crop production and the environment (IV) Speaker: K. MENGEL (FRG)
5. Human impacts on evolution of soils under various conditions of the world (V) Speaker: B. ROZANOV (USSR)
6. Mineralogical insights into soil productivity (VII) Speaker: R. J. GILKES (Australia)

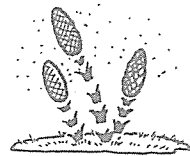
1.2 シンポジウム

シンポジウムの課題は次のとおりです。各課題について5～6編の論文(うち1編は招待論文)が発表される予定です。シンポジウム(公募論文)の発表希望者には、あらかじめ要旨を提出していただき、採否はシンポジウムの課題との適合性を審査し、決定します。審査の結果シンポジウムにはいらぬものについてはポスターセッションでの発表をお願いし、その要旨は要旨集に掲載します。シンポジウム採用者には1989年後半中に本論文を提出していただき、論文集として印刷します。

1.2.1 シンポジウムの課題(カッコ内のI～IVとA～Dは各シンポジウムの責任部門またはサブ部門です。)

(I-1) Areal estimation of soil hydrological processes

and their application in: a) watershed hydrology; b) efficient use of the irrigation and drainage structures
(I-2) Areal estimation of soil hydrological processes and their application in: c) land evaluation and d) environmental protection
(I-3) Soil degradation processes and methodology to evaluate relevant parameters
(I-4) Problems and opportunities in soil physical management in rice-based cropping systems
(II-5) Scale problems in evaluation of the soil processes
(II-1) Kinetics of ion sorption processes in soils
(II-2) Surface chemistry under varying redox conditions
(II-3) Heavy metal accumulation in soil
(II-4) Chemical and physical processes in the soil-root system and active role of plant roots
(II-5) Dynamics of P and N in soils with variable charge colloids
(II-6) Soil emissions affecting the environment
(III-1) Associative and parasitic microorganisms in the soil biotechnology
(III-2) Microbial processes in the rhizosphere and their influence on nutrient uptake by plants
(III-3) Ecology of soil microorganisms in the microhabitat environments
(III-4) Role of biological nitrogen fixation in sustainable agriculture
(III-5) Biodegradation of synthetic compounds in soil
(IV-1) Long term field experiments on fertilization
(IV-2) Responses and tolerance mechanisms of plants to adverse soil conditions
(IV-3) Advances in use of isotopes for researches in soil fertility and plant nutrition



(IV-4) New aspects of essential and beneficial elements in plant nutrition
(IV-5) Rational use of sewage sludge and city waste materials in agriculture
(IV-6) Fertilizer technology and its efficient use for crop production
(IV-7) Nutrient linkage in soil-plant-animal systems
(IV-8) Fate of nitrogen in paddy fields
(V-1) Recent development in national soil classification systems
(V-2) Recent development in the preparation of international soil reference base
(V-3) New methods of soil inventory and cartography for ecosystem development
(V-4) A 1:1 million world soils and terrain digital data-base: its structure, development and use
(V-5) Soil geography in eastern Asia
(V-6) Historical, philosophical and sociological aspects of development in soil science
(V-7) Characterization and role of organic matter in different soils
(V-8) Global soil changes and their dynamics in a changing environment
(IV-1) Evaluation of the changes in soil properties as related to various management practices
(IV-2) Pedotechnical approach to present-day soil tillage and field traffic problems
(IV-3) Movement and accumulation of salts and optimal irrigation scheduling
(IV-4) Irrigation, drainage and management of heavy clay soils
(IV-5) Soil management for sustainable agriculture in the tropics
(VII-1) Soil mineralogy, soil classification and soil management
(VII-2) Occurrence, structure and properties of soil minerals in the temperate regions
(VII-3) Occurrence, structure and properties of soil minerals in the tropics
(VII-4) Physical, chemical and mineralogical characteristics of and soils
(A-1) Salt-affected soils and effective methods of their utilization under different ecological/environmental conditions
(B-1) Application of micromorphology to agronomic and environmental sciences
(C-1) Conservation-effective management requirements for soils in contrasting agro-ecological zones

(D-1) Soil biota in tropical soil ecosystems

2. 予備登録の方法

この号にとじ込みの「予備登録申込書(ハガキ)」に必要事項を記入し、下記の第14回国際土壌科学会議事務局にお送りください。控えとして、必ず予備申込書のコピーを取っておいてください。締切は1989年1月末日に早まりました。なお、部門の番号は次のとおりです。

I: 土壌物理学, II: 土壌化学, III: 土壌生物学, IV: 土壌肥沃性と植物栄養, V: 土壌生成・分類・調査, VI: 土壌工学, VII: 土壌鉱物学

予備登録をされた方の方に本登録の用紙、発表用紙用原稿用紙、原稿作成要領等をお送りし、ご案内します。(用紙原稿の締切は1989年4月末日に早まりました。)

3. ホテルの斡旋

旅行代理店ではホテルの斡旋をします。希望者は下記のなかのクラスと宿泊期間を予備登録申込書に記入してください。

クラス	シングル	ツイン
A	15,000円	18,000円
B	7,500	13,000
C	6,800	11,000
D	6,000	10,500
E	2人部屋1人当たり	3,600円
	4人部屋1人当たり	3,000円

(税・サ込)

4. 連絡先

第14回国際土壌科学会議事務局(担当者: 福土定雄・大場千恵子)

〒113 東京都文京区本郷6-26-10-202

日本土壌肥料学会内

電話 03-815-6720

Fax. 03-815-6018

旅行代理店: 日本交通公社 外人旅行事業部(担当者: 鈴木広行)

〒113 東京都中央区日本橋1-31-1

電話 03-276-7885

Fax. 03-271-4134



第14期特別委員会の活動始まる

平成元年2月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議では、昨年10月の総会において設置された第14期の各特別委員会が活動を始めましたが、今回の日本学術会議だよりでは、これらの特別委員会に加えて、本会議が行っている国際的活動等についてお知らせいたします。

第14期の特別委員会

昨年10月の第106回総会で決定された、日本学術会議の第14期活動計画では、活動の重点目標として、①人類の福祉・平和及び自然との係わりを重視する学術の振興、②基礎研究の推進と諸科学の総合的発展、③国際関係の重視と国際的寄与の拡大、の3本の柱を掲げるとともに、これらの重点目標を踏まえて、多方面の科学者によって構成される日本学術会議にふさわしく各分野にわたって広く対応し、かつ、第14期中に適切な形で報告・提言に取りまとめるべき具体的課題として15の課題を選定している。

この度設置された7つの特別委員会は、上記の具体的課題のうち、従来から常設されている6つの常置委員会（別掲参照）で取り扱うものを除き、かつ、緊急に調査審議を行う必要のある7課題に対応するものである。

各特別委員会の名称及び任務等は次のとおりである。

◆平和及び国際摩擦に関する特別委員会

委員長：川田 侃（第2部会員）

（任務）国際的視野と我が国が置かれている地域的狀況や特性を踏まえて、国際摩擦（文化的・政治経済的・技術的）の解決と平和に関する総合的な研究の推進の在り方やその体制等について検討する。

◆医療技術と社会に関する特別委員会

委員長：水越 治（第7部会員）

（任務）医療技術の急速な進展は、自然科学の分野だけでなく、人文・社会科学の領域にも種々の問題を提起している。様々な医療技術に係わる社会的側面を総合的に検討する。

◆生命科学と生命工学特別委員会

委員長：井上英二（第7部会員）

（任務）生命科学と生命工学の推進方策を検討するとともに、これらの急速な進歩を踏まえ、それらと人間・社会及び自然との係わりについても総合的に検討する。

◆農業・農村問題特別委員会

委員長：水間 豊（第6部会員）

（任務）農業・農村のもつ食糧生産や環境保全等の多面的機能について、近年の国際的・国内的状況を踏まえつつ、文化・経済・自然・都市との係わりで

幅広く検討する。

◆資源・エネルギー問題特別委員会

委員長：上之園親佐（第5部会員）

（任務）資源・エネルギーの開発と利用の問題を検討する。それに伴う自然及び人間社会への好ましくない影響を防止するという観点からも問題を検討する。

◆人間活動と地球環境に関する特別委員会

委員長：吉野正敏（第4部会員）

（任務）近年、経済社会活動の拡大等を背景に、人間活動が環境に及ぼす影響が地球規模で広がっており、深刻化する可能性を強めている。このような状況を踏まえ、人間活動と地球環境の問題等を検討する。

◆高度技術化社会特別委員会

委員長：佐藤 豪（第5部会員）

（任務）エレクトロニクス、メカニクス等の技術の発展・普及が社会に及ぼす影響、社会の情報化・技術化と人間との調和等について検討する。また、巨大な技術システムとヒューマン・ファクターとの関連についても安全確保と人間性確保の立場から検討する。

これらの各特別委員会は、発足以来現在までに各々2～3回の会議を開催するとともに、委員会によっては、シンポジウムやヒヤリングを実施して、それぞれの任務に沿った具体的な審議課題や今後の審議計画等について熱心に審議を進めている。今後の審議の成果が大いに期待されるところであり、今後、審議成果が発表され次第、紹介していく予定である。

なお、以上の7つの特別委員会のほかに、先般の総会の中合せにより、本年の4月総会において、人間の科学特別委員会（仮称）を追加設置する予定である。この「人間の科学」については、その具体的検討方法が複雑であるのであらかじめ若干の整理を行った後に、特別委員会を発足させることにしたものであり、現在、検討会を設置して問題の整理を行っているところである。

常置委員会

日本学術会議は、別掲の特別委員会のほかに、6つの常置委員会を設置している。各常置委員会は、本会議の目的及び職務・権限に即して、恒常的に調査・審議を進めていく必要がある事項について、個々の委員会の職務を明確にした上で設置されている。各常置委員会の名称と任務等は、次のとおりである。

●第1常置委員会（委員長：大石泰彦（副会長・第3部会員））

（任務）研究連絡委員会活動活性化の方策及び日本学術会議の組織等に関することを審議する。

●第2常置委員会（委員長：星野安三郎（第2部会員））

（任務）学問・思想の自由並びに科学者の倫理と社会的責任及び地位の向上に関することを審議する。

●第3常置委員会（委員長：渡邊富士夫（第7部会員））

（任務）学術の動向の現状分析及び学術の発展の長期的動向に関することを審議する。

●第4常置委員会（委員長：樋口敬二（第4部会員））

（任務）創造的研究醸成のための学術体制に関すること及び学術関係諸機関との連携に関することを審議する。

●第5常置委員会（委員長：市川淳信（第5部会員））

（任務）学術情報・資料に関することを審議する。

●第6常置委員会（委員長：染谷恭次郎（第3部会員））

（任務）国際学術交流・協力に関することを審議する。

これらの常置委員会は、昨年7月、第14期発足の際に、委員を決定するとともに、役員を選出して、直ちに活動を開始した。各常置委員会は、上記のそれぞれの任務に従い、また、前期からの委員会ごとの申送りを尊重しつつ、さらに、第14期の全体の活動計画に沿いながら、第14期の活動方針及び活動計画をたて、それに基づき鋭意活動を進めている。これらの常置委員会は、第13期には、勧告、要望あるいは見解等を取りまとめるなど多くの成果をあげたが、第14期の活動も注目されるところである。

平成元年(1989年)度共同主催国際会議

世界の代表的な科学者が一堂に会し、最新の研究情報を交換する学術関係の国際会議が、我が国でも数多く開催されている。日本学術会議では、これらのうち、毎年おおむね4件について関係学・協会と共同主催している。平成元年(1989年)度には、次の4国際会議を開催する。

■第14回高エネルギー加速器国際会議

- ・開催期間：平成元年8月21日～26日
- ・開催場所：学園センタービル等（つくば市）
- ・参加者数：国外 300人、国内 250人、計 550人
- ・共催団体：（社）日本物理学会

■第40回国際電気化学会

- ・開催期間：平成元年9月17日～22日
- ・開催場所：国立京都国際会館（京都市）
- ・参加者数：国外 200人、国内 350人、計 550人
- ・共催団体：（社）電気化学協会

■第7回国際人工臓器学会世界会議

- ・開催期間：平成元年10月1日～4日
- ・開催場所：京王プラザホテル（札幌市）
- ・参加者数：国外 300人、国内 700人、計 1,000人
- ・共催団体：日本人工臓器学会

■第9回結晶成長国際会議

- ・開催期間：平成元年8月20日～25日
- ・開催場所：ホテル仙台プラザ（仙台市）
- ・参加者数：国外 300人、国内 600人、計 900人
- ・共催団体：日本結晶成長学会、（社）応用物理学会

二国間学術交流事業

日本学術会議では、二国間学術交流事業として、毎年2か国を選んで代表団を派遣している。その目的は、「諸外国における学術研究の動向及び現状を把握するとともに、学術研究に関する基本的、全般的事項について相手国科学者等と意見を交換することにより、我が国の学術の総合的な発展に寄与する。」ことにある。

この事業は、昭和58年度から実施されており、これまでにアメリカ、マレーシア、西ドイツ、インドネシア、スウェーデン、タイ、フランス、大韓民国、連合王国、シンガポールの10か国に代表団を派遣してきた。

昭和63年度は、10月29日から11月7日まで、チェコスロバキア及びポーランドへ、会長以下6名の会員から成る代表団を、また11月27日から12月4日まで、カナダへ、会長以下5名の会員から成る代表団をそれぞれ派遣した。

各代表団は、訪問国において、科学技術政策や教育を担当する行政機関、研究所、大学等を訪れ、関係者との間で学術関係の情報交換を行うとともに、両国の学術研究の問題点等について意見交換を行った。

チェコスロバキア及びポーランドでは、本会議としては初めての社会主義国の訪問であり、各訪問先で、今回の本会議代表団の訪問はこれら2か国それぞれとの間の学術交流について新しい段階を開く契機となり、非常に意義深いものであることが強調されるとともに、政治・社会体制を超えた学術交流の在り方等について、熱心に意見交換が行われた。

カナダでは、各訪問先で、近年の我が国の産業の発展と科学技術の役割の観点から、本会議の役割と活動を含め、我が国の学術体制に関する質問が多く出されるとともに、両国間の今後のより積極的な学術交流・協力をめぐる活発に意見交換が行われた。

今回の成果は、代表団訪問時だけのものではなく、本会議と訪問国関係諸機関との今後の継続的な交流への発展、相互理解の促進・緊密化等の形で現れてくるものであり、我が国の学術研究の国際交流・協力の進展に大きく役立つものと期待される。

「熱工学の研究動向と熱技術の進展」の刊行

本書は、本会議の熱工学研究連絡委員会が、関係学協会の協力の基に刊行した「熱工学白書」ともいうべきものです。〔1冊 1,000円（送料 200円）〕

※本書は、〔財〕日本学術協力財団で取り扱っています。

第2・第4土曜日閉庁のお知らせ

「行政機関の休日に関する法律」の施行に伴い、日本学術会議事務局では、本年1月から毎月第2・第4土曜日が休みとなります。御理解、御協力をお願いいたします。

御意見・お問い合わせ等がありましたら下記までお寄せください。
〒106 港区六本木7-22-34
日本学術会議広報委員会 電話 03 (403) 6291

1989年度第3回日本地球化学会評議員会議事録

日 時：1989年10月11日 15時30分～18時

場 所：広島大学学生会館

出席者：一國雅巳会長、綿拔邦彦副会長、鳥居鉄也監事、石渡良志、大隅多加志、小倉紀雄、梶原良道、兼岡一郎、木越邦彦、日下部実、杉崎隆一、鈴木 款、高野穆一郎、田中剛、坪田博行、中山英一郎、野津憲治、松葉谷治、松久幸敬、水谷義彦、柳 〃、各評議員

I. 前回の議事録を一部修正して承認した。

II. 報告事項

1. 監事会（高野評議員）

* 9月10日14時～18時の間に、東京大学教養学部において開かれた。一國雅巳会長、綿拔邦彦副会長以下6名の幹事が出席した。

2. 庶務（高野評議員）

* 8月15日に文部省より学術定期刊行物補助金としてG.J.に対し134万円を交付する旨の通知および国庫金出金通知書を受け取った。

* 63年度科科学研究費補助金「研究成果公開促進費」状況報告書を10月1日現在で文部省に提出した。

* 第二回評議員会で決定した日本学術会議研究連絡委員会委員として松久幸敬（鉱物）、小倉紀雄（陸水）酒井均（海洋）、角皆静男、増田彰正、石渡良志、酒井均（宇宙化学地球化学）の各会員を日本学術会議に推薦した。

* 前項に関連して当学会から地質科学総合研連への委員一名の推薦依頼があったので各評議員へ書面で意見を求めた結果脇田宏会員を推薦することとし、学術会議へ報告した。

* AGUに対し、日本地球化学会は国内他学会との協同歩調を前提として「1990Western Pacific Geophysics Meeting」に参加する用意のあることを 会長名で回答した。

3. 会計（野津評議員）

* 1988年度会計中間報告書について説明があった。

4. 編集

（松久評議員）

* G. J. Vol. 22 No. 1 は会員に発送済みである。

* G. J. Vol. 22 No. 2 は現在初校の段階である。

* 10月初めには発送できる見込みである。1月から9月までの投稿数は24編であった。

* G. J.の投稿規定を一部次のように変更した。

* ノートのセクションをなくした。特集号を組みことを

明記した。

（大隅評議員）

* G. J.の別刷り代金の価格を変更した。

（綿拔副会長）

* G. J.の講読料を年間150ドルに改めた。

（石渡評議員）

* 『地球化学』22巻1号は6月末に発送済みである。2巻2号は10月頃に発行予定である。投稿の勧誘をお願いしたい。

5. ニュース（鈴木評議員）

* ニュース114号は8月に発行済みである。115号は今年中に発行予定であり、その原稿締切は11月5日を予定している。

6. 行事（坪田評議員）

* 1988年度年会（広島大学）への申し込み状況は課題討論（38）、一般講演（199）、ポスターセッション（27）である。発表者総数520名のうち会員は241名である。親睦会予約者は一般150名、学生37名である。

III. 議事

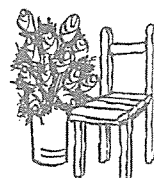
1. 入退会

* 入会（9名）阿達一宏・阿部泰行・五十嵐丈二・小沢政徳・塩崎功・白柳康夫・関野博一・野崎英男・日澤洋

* 退会（1名）加藤武雄

以上を承認した。会員現況は以下のとおりである。

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1988年5月1日	886	12	6	904
入会	9	0	0	9
退会	1	0	0	1
1988年8月31日	894	12	6	912



2. 1987年度日本地球化学会総会次第について
* 高野評議員から次第について説明があり了承された。

3. 1988年度事業及び決算報告について

* 高野、野津評議員から説明があり了承された。

4. 1988年度事業及び会計中間報告について

* 高野評議員から事業中間報告について説明があり了承された。

* 野津評議員から会計中間報告について説明があり了承された。

5. 1988年度事業計画及び予算案について

* 高野評議員から説明があり了承された。

* 野津評議員から説明があり了承された。

6. 年会・シンポジウム関係

* 1988年度春期シンポジウムは午前を一般講演（10件程度）とし公募すること、午後は招待講演（4名、原田晃、巻出義紘、馬淵久夫、浅田敏の各氏）とすることが小倉評議員から提案され了承された。

* 1988年度会は10月初旬を予定しているが東京大学の学年歴未定のため日程は未定との説明があつた承された。

* 1990年度年会は新潟大学で10月3、4、5日に行うことが決定された。

7. 学会賞等線香委員の選出について

* 第二回評議員会の方針に基づき幹事会で検討した結果が報告され、新たに委員の選出を行うこととした。投票結果、松久幸敬、増田彰正、松尾禎士、北野康、酒井均、会員が選出された。

8. 学術会議宇宙化学地球化学研連委員の補充について
* 上記研連委員の欠員の可能性があるため1名の会員を選出することとした。投票の結果田中剛評議員を選出した。

総会議事次第

1. 開会宣言
2. 議長選出
3. 会長挨拶
4. 年会実行委員長挨拶
5. 1987年度事業報告ならびに決算報告
6. 監査報告
7. 1988年度事業中間報告ならびに会計中間報告
8. 日本学術会議会員候補・推薦人の選出と選挙結果について
9. 1989年度事業計画ならびに予算案
10. その他
11. 奨励賞の授与
12. 閉会

1988年度日本地球化学会総会は10月11日（仮）広島大学において16時30分から17時30分に開催された。出席者は約60名であった。議長に増田彰正氏（東京大学）が選出された。事業及び決算報告ならびに1989年度の事業計画と予算案が承認された。8.の日本学術会議会員候補・推薦人の選出と選挙の結果について報告があり了承された。総会席上1988年度日本地球化学会奨励賞が原田晃会員に授与され、賞状ならびに記念メダルが一國会長より手渡された。

1987年度事業報告

1. 会員状況

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1987年1月1日	872	13	6	891
入会	37	0	0	37
退会	23	1	0	24
1987年12月31日	886	12	6	904

2. 年会、委員会等開催数

年会1回（11/5-7：東邦大学）、総会1回（11/6：東邦大学）、評議員会4回（2/7, 6/20, 11/4, 12/12）、幹事会3回、会誌編集委員会4回、ニュース発行委員会3回、行事委員会3回、広告委員会2回、IGBP委員会1回、春期シンポジウム1回、学会賞受賞者線香委員会1回

3. 会誌発行

G. J. Vol. 21(1-6), 地球化学Vol. 21 (1, 2)

4. ニュース発行

Nos. 109, 110, 111

5. 名簿発行

6. 学会賞等の授与（奨励賞）

7. 1988-1989年度役員選出

8. 学会共催

第24回理工学における同位元素研究発表会

1987年度決算報告

別紙

1988年度事業中間報告

1. 会員状況

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1987年12月31日	886	12	6	904
入会	18	0	0	18
退会	10	0	0	10
1987年8月31日	894	12	6	912

2. 年会, 委員会等開催数

年会 1 回(10/12-14: 広島), 総会 1 回(10/13: 広島),
評議員会 3 回 (2/13, 6/4, 10/11), 幹事会 3 回 (2/6, 5/29, 9/10, 東京) 会誌編集委員会 4 回, ニュース発行委員会 3 回, 行事委員会 3 回, 学会賞受賞者選考委員会 1 回, 春期シンポジウム 1 回

3. 会誌発行

G. J. Vol. 22 (1), 地球化学 Vol. 22 (1)

4. ニュース発行

No. 112, 113, 114

5. 学会等の授与 (奨励賞一件)

6. 学会共催

第25回理工学における同位元素研究発表会

ESR応用計測研究会研究発表会

日本宇宙生物学会第二回大会

1988年度会計中間報告

別紙

1989年度事業計画

1. 年会 1 回 (東京)

2. 総会 1 回 (東京)

3. 春季シンポジウム (東京)

4. 評議員会 4 回

5. 幹事会 4 回

6. 会誌発行

G. J. Vol. 23 (1-6)

地球化学 Vol. 23 (1, 2)

7. ニュース発行

No. 116, 117, 118, 119

8. 学会賞等受賞者の選考

9. 名簿発行

10. 1990-1991年度役員選出

11. 学会共催

第26回理工学における同位元素研究発表会

12. その他

1989年度予算

別紙

編集者 鈴木 敦 〒305 茨城県つくば市長峰 1-1 気象研究所地球化学研究部 電話 0298(51)7111

発行所 日本地球化学会 〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル (4F)

日本学会事務センター内 電話 東京 03 (817) 5801

日本地球化学会ニュース

No. 117

1989. V. 30

1989年度日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 1989年10月3日(火) - 5日(木)

会場 東京大学教養学部
東京都目黒区駒場 3-8-1

内容

一般講演

ポスターセッション

課題講演

1) 星間分子, 太陽系始原物質

コンビーナ 増田彰正

2) 大気環境化学

コンビーナ 富永 健

3) マントル-地殻系の進化

コンビーナ 小嶋 稔

講演申込み締切

6月20日(火) 必着

同封の申込用紙を御使用下さい

1) 課題講演・一般講演を通じ1人, 1講演に限る(共同発表者としての重複は可)。2 講演目からはポスターセッションを御利用下さい。ポスターセッションのみの申込も歓迎します。

2) 一般講演の発表時間は15分です。今回は, ア) 発表12分, 質疑3分; イ) 発表8分, 質疑7分の2つを設けます。一般講演申込の方は, いずれかを選択し, 申込用紙に記入して下さい。

講演要旨原稿締切

8月19日(土) 必着

講演申込の締切後, 講演要旨集用原稿用紙をお送りします。

要旨集代 4,000円

参加費 日本地球化学会会員 1,000円

非会員 2,000円, 学生 無料

懇親会

10月4日(水) 18時から東京大学教養学部生協食堂

にて, 会費4,000円(学生3,000円)

要旨集予約, 懇親会, 小集会申込締切

9月16日(土)

要旨集代, 参加費および懇親会費は9月16日までに御送金下さい。

送金先 郵便振替 東京9-410264

1989年度日本地球化学会年会

泊 今回は旅行業者による斡旋は行いません。各自で御手配下さい。

申込先及び連絡先

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学理学部化学教室内

1989年度日本地球化学会年会準備委員会

増田彰正, 清水 洋

電話 03-812-2111 内線4349, 4350, 4351

FAX 03-814-2627

(東京大学理学部化学教室事務室)

会員名簿作成の調査

1989年度は「会員名簿」の発行年であり, つきましては, 本ニュース同封の「返信」に必要事項をご記入の上, 折り返しご投函下さい(7月5日締切)。

返信記入上の注意

1. 返信用葉書に記載されている各項目は学会事務センターのコンピュータに登録されている会員基本情報の内容です。名簿の訂正はこのファイルに基づいて行いますので変更のある項目を赤ボールペンでご訂正下さい。
2. 回答のない場合は名簿の正確さを欠くだけでなく学会誌の発送等が届かなくなる可能性があります。(なお, 連絡先(自宅ないし所属)には○印を付して下さい。)
3. 変更のない場合にも必ず返信葉書を返送して下さい。
4. 今後とも会員基本情報の内容に変更が生じた場合, 必ず学会事務センターへ連絡下さるようお願い申し上げます。

日本地球化学会1990・1991年度役員選挙の立候補者および推薦候補者の届出について

本会会則により1990・1991年度役員の選挙を次の日程で行います。

立候補者・推薦候補者締切	7月24日必着
選挙広報・投票用紙・会員名簿発送	8月25日
投票締切	9月25日必着
選挙結果公表（総会）	10月4日

つきましては、下記の要領で、会長・副会長・監事・評議員に対してそれぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長1名、副会長1名、監事1名、評議員20名を選出します。
2. 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、(1)本委員会に持参するか、または(2)本委員会宛に送付して下さい。
3. 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に推薦候補者の承諾書をそえて、推薦者またはその代表者が、(1)本委員会に持参するか、または(2)本委員会宛に送付して下さい。なお役員選出細則第8条により、次の方々は今期評議員に選出することが出来ません：
石渡良志、大隅多加志、梶原良道、兼岡一郎、木越邦彦、杉崎隆一、坪田博行、中山英一郎、松葉谷治、松久幸敬、松本英二、水谷義彦。
4. 第2項と第3項に記した以外の方法で届出が行われた場合には、届出を受け付けることが出来ません。郵送の場合は裏に（選挙）と記入し、「書留郵便」として下さい。
5. 届出の締切は、1989年7月24日（必着）です。
6. 本委員会の所在地は次の通りです。

〒113 東京都文京区弥生1-1-1
東京大学地震研究所 兼岡一郎
電話 03-812-2111 内線 5810

○1989年度水圏地球化学若手会

今年も水圏地球化学若手会を開催します。

- 1) 日時は、1989年度日本地球化学会の終了後から、翌日の午後3時頃までを考えております。
- 2) 場所は都内某所を予定しており、現在交渉中です。

- 3) テーマについては未定ですが、学位取得前後の人を話題提供者とし、セミナー形式で行うことを予定しております。また、スペシャルゲストを予定しております。

4) 問い合わせ先

東京大学 理学部 地殻化学
石橋 純一郎 (03) 812-2111 (内4450)
または
近畿大学 理工学部 化学科 地球化学
中口 譲 (06) 721-2332 (内4112)
詳しい内容が決まり次第、連絡致します。

日本地球化学会春季シンポジウム

1989年4月10日、日本地球化学会春季シンポジウムが東京大学山上会館において開催された。プログラムは既に本会ニュースNo. 116に記載された通り行われた。当日は雨天であったが、参加者は約100名で討論も活発に行われた。ポスターセッションも活発に質疑が行われた。今後の春季シンポジウムの発展のために、シンポジウムのテーマ等意見を幹事会にお寄せ下さい。

1988年水圏地球化学若手会からの報告

日 時 1988年10月14日（金）午後6時～
15日（土）午後12時
場 所 広島県勤労者福祉会館 みゆき会館
テーマ 今、海洋化学に求められるもの—他分野から見た海洋化学—

海洋化学者が海洋を研究する際、当然のことではあるが多くの研究者は化学の領域でしか海洋を見ていない場合が多い。また我々にとって重要な化学成分を調べるという場合、未だに古い方法を用い、多くの時間、労力、試料を費やしている。さらにこのようにして得られた実験結果についても化学のみの知識では解決できない問題が多いことも確かである。そこで今回この会のテーマを「今、海洋化学に求められるもの—他分野から見た海洋化学—」とし、他の分野で御活躍中の先生方に問題提起をお願いした。その中で我々の分野に何が不足しているか、また他分野から海洋化学に求められているものは何か、海洋化学の将来はどうあるべきかなどを自由に討論できる機会を作った。

世話人 下島公紀（広島大学総合科学部）
中口 譲（近畿大学理工学部）
宗林由樹（京都大学科学研究所）
杉山雅人（京都大学教養部）
一色健司（高知女子大学家政学部）

海洋地球化学と海洋地質学の接点と問題点

—地質学者の見た海洋地球化学—
藤岡換太郎（東大・海洋研究所）

〈はじめに〉

固体地球化学はGoldschmidt以来岩石学や鉱物学を主とする地質学と密接に結びついて進歩した。一方、海洋地球化学はChallenger Expedition以来主として海水の化学組成の定量分析から独自の発展をして来た。1970年代後半に大洋中央海嶺から金属硫化物に富むスモーカーが発見され、それに伴う生態系の発見と相まって、海洋地球化学は海洋地質学と結びつき今や新しい段階に入ろうとしている。ここでは、海洋地球化学で現在なされている主要な研究テーマにつき海洋地質学者から見たコメントを加え、更に地質学の最近の主要なテーマのうち特に海洋地球化学者にとって重要と思われるテーマについていくつかの問題を提起してみたい。

〈海洋地球化学〉

海洋地球化学の主要なテーマのうち筆者が興味ありかつ重要であると思われる5つのものを以下に選んでみた。それはA：岩石や堆積物中の間隙水の循環、①Interstitial Water, ②Seepage, ③Hydrothermal Solution；B：Marine Flux, ①生物源物質、②無機物、③有機物；C：Marine Chemistry, ①Horizontal chemical variation, ②Vertical chemical variation；D：Mixing of Sea water and Ground water at delta, E：Deep Circulationである。Aは堆積物や岩石の中で水とそれによって運搬される物質の循環の問題である。地質学で重要なことは、水の通り道（Conduit）がどのようにして形成されるかということである。これらの通路には大規模なものから顕微鏡サイズの小規模なものまである。それらの成因を一意的に扱うことは出来ないが、通路全体を含む地質帯（プレート全体のこともあれば、表層の堆積物の限られた地域の場合もある）が受けて来た変形および物性変化の履歴を明らかにすることができればよいわけである。またこの循環水の由来に関しては、マントルと地殻を含めた岩石や堆積物と水との反応関係の時間的・空間的な関係の全体がわかれ

ば、その成因を論ずることができる。Bのテーマは海洋の中での水と物質の動きの問題である。地質学（古生物学も含めて）で扱うのは主として①と②である。これは海底にたまる堆積物の堆積速度、種類、堆積機構などにとって重要である。無機物あるいはincombustible materialでは風成砂や火山源物質、陸源物質が重要と考えられるが陸や火山から遠く離れたところではこれらの量は①と③に比べて極めて少ない。Cのテーマは海洋地球化学の古くて新しい問題である。化学分析の技術の向上に伴って極微量の元素まで精度よく測定できるが、元素の水平、垂直分布の解釈については多くの地質学的傍証が必要であり、かつ海洋のたどって来た歴史を知ることが基本的に不可欠である。このことがなおざりにされがちのように思える。Dは揚子江など巨大なデルタ域での水の混合の問題である。地質学ではデルタの形成に関しては多くの研究がなされほぼ定式化されている。Ground waterについては後背地域の地質帯が大きな影響を与えており注意を要する。Eは水塊の混入や入れ替わりをトレーサーを用いて調べることである。この場合もCと同様に現在の海洋が出来あがるまでにどのような変遷をたどってきたかを考慮する必要がある。上記の海洋地球化学のテーマを扱う時に注意すべきことは時間とTectonic Settingであろう。扱っている堆積物や岩石のある量がどの位のTime spanを表しているのかを考慮しなければテーマによっては致命的である。同時に堆積物の生物攪拌やテクトニックな変形も同様である。扱っている海域の海底地形やTectonic settingを考慮しないときは時として致命的である。水は低きに流れるが、density currentは時として高きを越えることもある。このような問題点についてはいくつかの実例を示しながら解説を加えるつもりである。

〈地質学の主要テーマと地球化学〉

最近地質学で問題になっている大きなテーマの1つにプレートの沈み込み帯における水の循環の問題がある。これは1980年代に沈み込み帯に生物群衆が見つかったことや沈み込み帯に存在するmud diapirの成因がその地下の堆積物を含む水のtectonic over pressureに起因するらしいという観察が発点となっている。日仏共同海溝計画では天竜、鹿島、宮古、千島のcommunityの実体が明らかにされた。このような生物群集はすべて海溝陸側斜面下部に立地し、そこでは逆断層と多量の陸源物質の供給などが群集の成立に関係している。しんかい2000によって相模湾で発見された初島と沖ノ島山のcommunityも海溝計画で発見されたものと同じsettingである。このような深海生物群集の

成因を明らかにするためには、地質学、地球物理学、生物学及び海洋地球化学の分野の共同研究が不可欠であり、すでにそのような試みもなされはじめてきている。

国際深海掘削計画第110節ではバルバドスの付加帯の連続掘削が行われ、付加帯下の巨大なデコルマ面に沿って大量の有機物に富む水が運搬されていることが明らかにされた。バルバドス島とその周辺の海底に分布する泥火山はこのような水の移動の地表へのあらわれである。現在バルバドス付近に起こっているこのような現象は過去の地質帯にも記録されている、日本列島では四万十帯中の泥岩や房総南部に広く分布する上総層群中にみられるvein系がそれであり、現在は方解石や沸石によって満たされている。沈み込み帯の中の付加帯の形成とその変形にはtectonic over pressureの影響が働いている。このような状態のもとでの水の移動の解明には地質学地質学と海洋地球化学との共同研究が強く望まれている。

沈み込み帯の付加帯とその周辺に起こっている現象の解明は地球化学の分野の中でも第一級のテーマであり、これには地質学、地球物理学、地球化学、生物学など全分野を含む総合的な研究が不可欠であり望まれている。

分析化学からの提案

山本 学 (広島大学・理学部)

今日では分析の技術は、工場における管理、環境のモニターはじめ、きわめて広い分野で、高度のレベルで利用されている。特に、品質管理の面での応用は広く進んでおり、日本の工業製品の品質の高さを支える重要な役割を担っている。これらの分野での測定の場合、対象がそれぞれ限られており、完全な自動化も極めて容易であり、自動化に要するコストも問題とはならない。しかし、研究室での測定を対象とした場合は、測定対象も変化にとんでおり、自動化は個々の研究者の自主性に任されているといえよう。しかし、測定を時間的にも場所的にも密にすることにより、従来の断片的な測定とは明らかに異なった情報が得られることが指摘されており、現場での連続モニタリングのほかにも、ますます測定頻度が増加する傾向にある。このような点において、FIAをはじめとする流れ分析法は、測定器(検出器)にはいるまでに試料の濃縮や分離などの処理に費やせざるを得ない研究者の貴重な時間と労力を節約できるものとして、また、低濃度の試料に

対して処理の過程における汚染を最小にするものとして大いに利用すべきものと思われる。

我々は、これまで水素化物生成法、溶媒抽出法などへのFIAの応用を試みてきた。水素化物生成法のマニホールドをFig.1に示す。海水中のAsを測定したときの、この方法と従来のバッチ法との比較を示す。

	バッチ法	FIA
Sample volume	50-100ml	1-2ml
R.S.D.	3-5%	1-2%
測定件数	20/h	120-180/h

検出器もICP-AESをはじめとして多元素同時定量法が普及しつつある。このような状況では、FIAのみでなく、連続フロー法ももう一度見直す価値がある。我々はFIAによる溶媒抽出法を報告したが、今回、より高い濃縮率が得られるように、連続フロー法を試みた(Fig.2)。この方法では60-100倍の濃縮が可能であり、Beを対象として、ICP-AESによりd.l.として8 pptが得られた。このような方法は簡単で、コストも安く、かつ対象に応じて容易に組替が可能である。前処理の段階を、反応をよく理解した上で自動化(あるいは半自動化)をすることは、多数の試料を測定することが必要な分野において極めて有用なことと思われる。

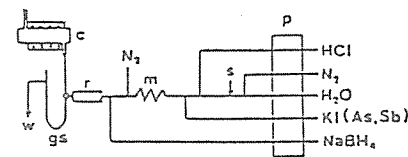


Figure 1. Flow injection manifold for HG AAS: (p) peristaltic pump; (s) sample injection loop; (m) mixing coil; (r) reaction tube; (gs) gas-liquid separator; (c) quartz cell

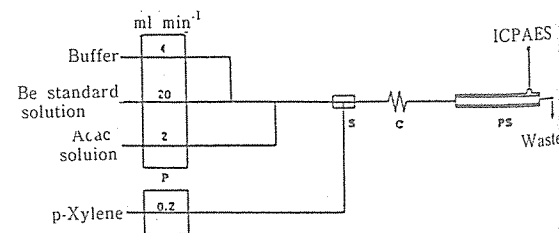


Figure 2. Flow manifold
P: Peristaltic pump; DP: Double plunger pump;
S: Segmentor; C: Extraction coil; PS: Phase separator

「女性科学者に明るい未来を の会・猿橋賞」

1990年度受賞候補者の推薦依頼

「女性科学者に明るい未来をの会」(1980年10月創立)では、自然科学の分野で顕著な業績をおさめた女性科学者に、毎年、賞(猿橋賞)を贈呈しています。つきましては下記の要領により、第10回(1990)受賞候補者の推薦をお願いいたします。

今日まで下記の9名の方に、賞を贈呈しました。

- 第1回 太田朋子博士 国立遺伝学研究所教授(分子レベルにおける集団遺伝学の理論的研究)
- 第2回 山田晴河博士 関西学院大学教授(レーザー・ラマン分光による表面現象の研究)
- 第3回 大隅正子博士 日本女子大学教授(酵母細胞の微細構造と機能の研究)
- 第4回 米沢富美子博士 慶応義塾大学教授(非結晶物質基礎物性の理論的研究)
- 第5回 八杉満利子博士 京都産業大学教授(解析学の論理構造解明のための方法論)
- 第6回 相馬芳枝博士 通産省大阪工業試験所主任研究官(新しい有機合成触媒の発見)
- 第7回 大野 泉博士 東京工業大学助教授(電気化学的薄膜形成の基礎的研究)
- 第8回 佐藤周子博士 愛知県がんセンター研究所部長(放射線による癌細胞分裂死の研究)
- 第9回 目下選考中
- 第10回 11月末日が締め切りで推薦を受付中です。

記

- 本賞は自然科学の分野で顕著な業績をおさめた女性科学者(ただし、下記の推薦締切日で50才未満)に贈呈します。
- 本賞は賞状とし、副賞として賞金(30万円)をそえます。
- 本賞の贈呈は、1年1件(1名)とします。
- 第10回の賞贈呈式は、1990年5月、東京において行う予定です。
- 同封用紙に受賞候補者の略歴、推薦理由(400字程度)、主な業績文献リスト、生年月日、自宅住所、電話番号等を記入して、1989年11月末日必着で、下記宛にお送りください。

女性科学者に明るい未来をの会

会長 湯浅 明

〒166 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217

電話 03-330-2455

XIII International Geochemical Exploration Symposium Brazilian Geochemical Congress

Rio de Janeiro, Brazil October 1-6, 1989

The Association of Exploration Geochemists-AEG
Sociedade Brasileira de Geoquímica-SBGq
(Brazilian Geochemical Society)

DEADLINES AND KEY DATES

	Combined Event	XIII IGES	II CBGq
Submission of Abstracts		May 1	May 1
Submission of Papers		Oct 6	May 1
Discount Registration	March 30		
Field Trip Reservation	June 15		
Hotel Reservation	June 15		
Registration Return	Sept 1		

The Symposium and Congress will be scheduled as follows:

Date (s)	Event
Oct.1(AM)	Registration
Oct.1(eve.)	Welcoming Cocktail; Opening of the XIII International Geochemical Exploration Symposium and II Brazilian Geochemical Congress
Oct.1-3	Workshops
Oct.2-3	II Brazilian Geochemical Congress
Oct.4-6	XIII International Geochemical Exploration Symposium
Oct.4(eve.)	Round Table Discussion
Oct.5	Rio'89 Dinner
Oct.6(eve.)	Departure for Field Trips

TECHNICAL SESSION AND CALL FOR PAPERS - XIII INTERNATIONAL GEOCHEMICAL EXPLORATION SYMPOSIUM

Proposals for papers submitted for the XIII IGES covering the listed topics must be submitted in English as extended abstracts up to 1000 words or as completed papers. The deadline for submission of abstracts is May 1, 1989. In addition to typed manuscripts, the symposium committee requests that manuscripts be submitted on floppy 5.25-inch diskette whenever possible as unformatted ASCII files

to facilitate their review in word processor programs.

Abstracts must be detailed enough to allow the Technical Program Committee to reach an informed decision. First consideration for acceptance will be given to those papers containing new contributions to the field and to those reflecting a clear understanding of the geochemical processes upon which applied exploration is based.

The format used for manuscripts for the XIII IGES must be that specified in the Guide to Authors found in the first issue of the Journal of Geochemical Exploration to appear each year. The format used for papers submitted to the II Brazilian Geochemical Congress must be that specified in the Revista Geochimica Brasiliensis. English text descriptions of these formats will be furnished upon request. Authors must indicate the intended destination of their papers, either the XIII IGES or the II Brazilian Geochemical Congress. Papers in both the XIII IGES and II CBGq will be presented in 25 minute sessions including 5 minutes for discussion and questions.

The following topics comprise the major themes for the XIII IGES.

- 1) Enrichment and formation of ore deposits by geochemical processes.
- 2) Petroleum Exploration Geochemistry.
- 3) Applied Geochemistry in humid tropical terrains.
- 4) Applied Geochemistry in arid terrains.
- 5) Exploration geochemistry for precious metals, strategic metals (Cr, V, Mn etc.) and high-technology metals (Ga, Y, In etc.).
- 6) Recent developments in analytical chemistry techniques appropriate to Exploration Geochemistry.
- 7) Geochemistry of Carbonatites and Rare Earth Metals.
- 8) Applications of Lead Isotope Geochemistry.
- 9) Environmental Geochemistry.
- 10) Lithogeochemistry.

TECHNICAL SESSION AND CALL FOR PAPERS II BRAZILIAN GEOCHEMICAL CONGRESS

The II Brazilian Geochemical Congress will include technical sessions with oral presentations, and round table discussions on the following main themes:

THEMES

- 1) Geochemical Exploration
- 2) Lithogeochemistry and Isotope Geochemistry
- 3) Environmental Geochemistry
- 4) Geochemistry of Carbonatites and Rare Earth Elements
- 5) Analytical Geochemistry
- 6) Geochemistry in the Secondary Environment
- 7) Data Processing Applications in Geochemistry
- 8) Organic Geochemistry

TECHNICAL
COORDINATOR
D.Lindenmayer
(BOCEGEO, Brazil)
H.M.P.Roeser
(U.F.O.P., Brazil)
E.D.Bidone
(U.F.F./Oikos, Brazil)
P.R.Amorim
(C.V.R.D., Brazil)
C.V.Dutra
(GEOSOL, Brazil)

A.Carvalho
(U.S.P., Brazil)

H.Chaves

(CENPES-PETROBRAS, Brazil)

R.Rodrigues

(CENPES - PETROBRAS, Brazil)

Paper presentations for the II Brazilian Geochemical Congress will be accepted in both Portuguese and English.

Any further requirements regarding criteria necessary for papers submitted to the II CBGq should be directed to the Organizing Committee. Round table discussion will be held in 60 minutes sessions.

編集者 鈴木 款

〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所地球化学研究部
電話 0298 (51) 7111

発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル (4F)
日本学会事務センター内
電話 東京 03 (817) 5801

振込先銀行 三井銀行上野広小路支店
普通預金 口座番号 920-833

日本地球化学会ニュース

No. 118

1989. VIII. 10

1989年度日本地球化学会年会

主 催 日本地球化学会 共 催 日本化学会

日 時 10月3日(火)～5日(木)

会 場 東京大学教養学部(東京都目黒区駒場3-8-1)〈電話03-467-1171〉

年会準備委員会 東京大学理学部化学教室 増田・彰正

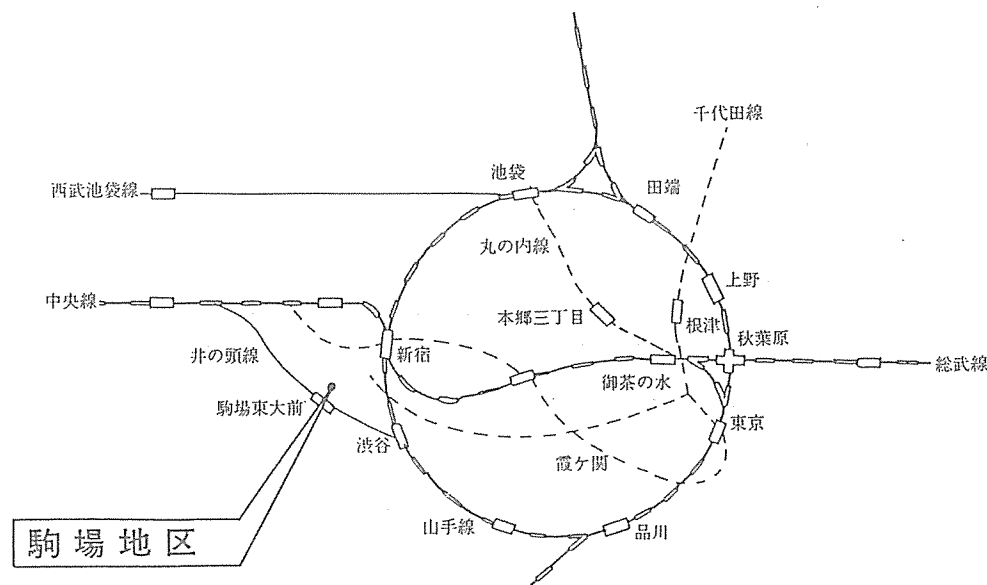
東京都文京区本郷7-3-1(電話03-812-2111 内線4350, 4351, 4349)

	会場	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
3 日 (火)	A	受 付	課 題 講 演 (大気・環境化学)				課 題 講 演 (大気・環境化学)				
	B		一 般 講 演 (海 洋)		一 般 講 演 (海 洋)						
	C		一 般 講 演 (岩石・地殻・マントル)		一 般 講 演 (岩石・地殻・マントル)						
	D		一 般 講 演 (地球外物質)		一 般 講 演 (地球外物質)・(堆積物)						
4 日 (水)	A		課 題 講 演 (マントル-地殻系の進化)				課 題 講 演 (マントル-地殻系の進化)			総 会	懇 親 会
	B		一 般 講 演 (海洋・沿岸・生物)				一 般 講 演 (有機物・堆積物)				
	C		一 般 講 演 (大気・降水)				一 般 講 演 (大気・降水)・(環境)				
	D		一 般 講 演 (鉱床・熱水)				一 般 講 演 (熱水・温泉)				
5 日 (木)	A		課 題 講 演 (星間分子・太陽系始原物質)			ポ ス タ ー セ ン シ ョ ン 討 論 時 間	課 題 講 演 (星間分子・太陽系始原物質)				
	B		一 般 講 演 (陸 水)				一 般 講 演 (岩石・地殻・マントル)				
	C		一 般 講 演 (有機物)				一 般 講 演 (有機物)				
	D		一 般 講 演 (火 山)				一 般 講 演 (火山・自然災害)				

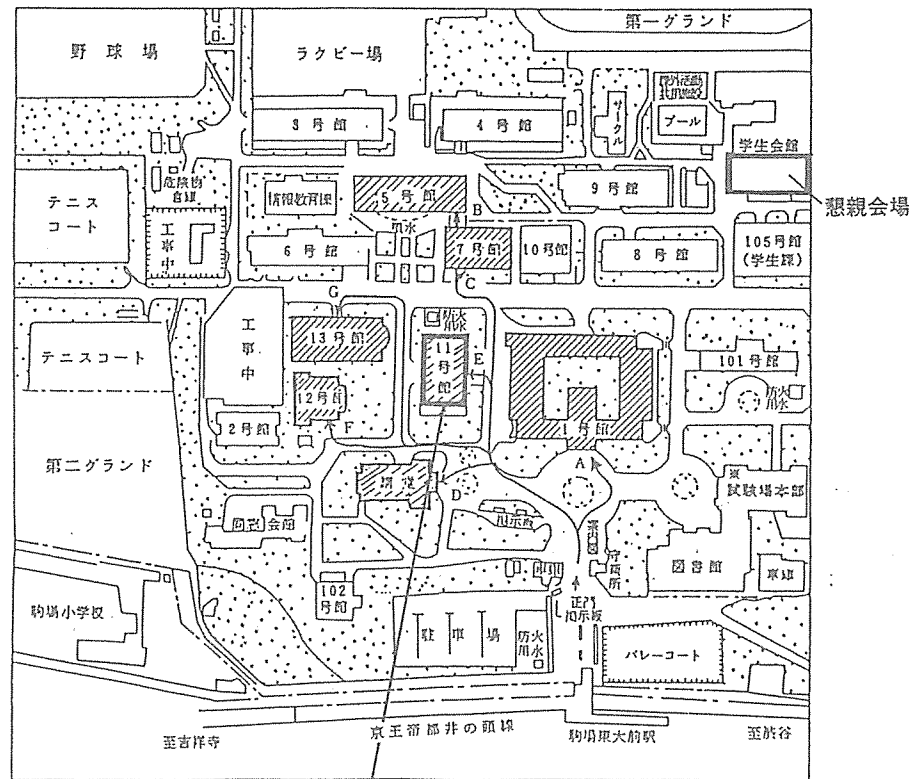
講演時間(討論時間を含む): 一般講演 15分, 課題講演 15～40分

懇親会: 10月4日(水) 18時～20時, 東京大学教養学部生協食堂。会費 4,000円(学生3,000円)

東京大学（駒場地区）案内図



駒場地区建物配置図



講演会場

会場への交通

JR渋谷駅から京王井の頭線乗車、駒場東大前（二駅前）下車、急行は止まりません。
（乗車時間約5分、会場まで徒歩約5分）一般車は構内駐車できません。

第1日（10月3日）

A会場 課題講演 [大気環境化学]

コンビーナー 富永健

(10:00~11:00) 座長 富永健

- 1A01 エアロゾル中の有機成分の研究—I。都市大気中の多環芳香族ケトン類（都立大理）○白川真由美・河村公隆（20分）
- 1A02 関東及びその周辺地域における梅雨期の降水にともなう大気降水物の分布（新潟県衛生公害研・神奈川県公害センター）○福岡紀夫・三村春雄（20分）
- 1A03 海洋大気中の微量成分の大気濃度とその挙動（慶応大理工）山本里恵・町田基宏・池内祥浩・田中茂・橋本芳一（20分）

(11:10~12:30) 座長 富永健

- 1A04 太平洋の海洋大気中ベリリウム-7濃度の時空間的変動（北海道東海大・ロードアイランド大・マイアミ大）○植松光夫・R.A. Duce・J.M. Prospero（20分）
- 1A05 酸性降水物による陸水の酸性化予測調査について（国立公害研）○河合崇欣・野尻幸宏（20分）
- 1A06 酸性雨と大気CO₂濃度との関連について（名大水圏研）加藤喜久雄（20分）
- 1A07 大気中の二酸化炭素の濃度と炭素同位体比について（気象研）○井上久幸・杉村行勇（20分）

(13:30~15:10) 座長 秋元肇

- 1A08 大気中のハロカーボン（東大理・東大アイソトープセンター）○富永健・巻出義紘・八巻竜太郎（40分）
- 1A09 洋上大気中におけるメタン濃度の季節変動について（気象研）○松枝秀和・井上久幸・杉村行勇（20分）
- 1A10 水田からのメタン発生量の測定（農業環境技研）○八木一行・陽捷行（20分）
- 1A11 水田から発生するメタンの $\delta^{13}\text{C}$ 値（三菱化成生命研）○鶴崎実・水谷広・和田英太郎（20分）

(15:30~16:50) 座長 巻出義紘

- 1A12 西太平洋上空における炭化水素の測定（国立公害研）○酒巻史郎・秋元肇（20分）
- 1A13 大気中のC₆-C₁₁アルデヒドの測定（国立公害研）○横内陽子・向井人史・安部喜也（20分）
- 1A14 テルペン類の光酸化反応によるGlobalなCO放出量の見積り（国立公害研）○島山史郎・秋元肇・鷺田伸明（20分）
- 1A15 農業生態系から放出される亜酸化窒素（農業環境技研）陽捷行（20分）

B会場 一般講演

[海洋]

(10:00~11:00) 座長 野崎義行

- 1B01 ハワイの完新世高海面（名大水圏研・神奈川県立博物館）○松本英二・松島義章
- 1B02 ベーリング海深海堆積物の年代測定（名大水圏研）○渡辺一樹・松本英二
- 1B03 パプアニューギニアのヒュオン半島の完新世サンゴ礁段丘の年代測定（名大水圏研）○西村務・松本英二
- 1B04 日本海盆堆積物の間隙水中における元素の水平移動（東海大海洋・名大水圏研）○加藤義久・増澤敏行

(11:10~12:25) 座長 松本英二

- 1B05 ベーリング海の間隙水中の重金属とアミノ酸について（東大海洋研）○石塚明男・児玉幸雄
- 1B06 海洋堆積物表層におけるマンガンの酸化状態について（東海大海洋）加藤義久・棚瀬ますみ・岡部史郎
- 1B07 海洋堆積物中の遷移金属の存在形態一分光測定法による同定の試み—（北大水産・原研）○長尾誠也・中嶋悟
- 1B08 日本海堆積物中の野イチゴ状黄鉄鉱の硫黄同位体比（名大水圏研・岡山地球研）○増澤敏行・日下部実
- 1B09 天然放射性核種からみた北部日本海溝付近における堆積過程（北大水産）○成田尚史・原田晃・角皆静男

(13:30~14:45) 座長 原田晃

- 1B10 南極ブライド湾における有機物の鉛直輸送（名大水圏研・極地研）○半田暢彦・中塚武・福地光男
- 1B11 食物プランクトンブルーム時における懸濁・沈降粒子有機物中の炭素・窒素安定同位体比の時空変動（名大水圏研・三菱化成生命研）○中塚武・半田暢彦・和田英太郎
- 1B12 海水の²¹⁰Po-²¹⁰Pb非平衡の再考察（東大海洋研）野崎義行
- 1B13 ¹⁵N, ¹³C同位体比から見た海水中けんだく粒子の挙動（東大海洋研）才野敏郎
- 1B14 海洋におけるDINとmetabolic Nの関係について（気象研）○杉村行勇・鈴木款

(14:55~15:55) 座長 鈴木款

- 1B15 加速器を用いた海水中溶存無機炭酸の¹⁴C濃度測定（名大理・名大RIセンター・東海大海洋・東大海洋研）○小野田伸一・中井信之・中村俊夫・豊田恵聖・深澤理郎

- 1B16 日本海の¹⁴C分布から推定される気体交換速度
(北大水産) ○渡辺修一・中島理夫・角皆静男
- 1B17 化学発光法による海水中のCr(Ⅲ)およびCr
(Ⅵ)のフロー分析法(京大理・京大化研・高
知女子大・京都工繊大) ○中山英一郎・宗林由
樹・一色健司・柄谷肇
- 1B18 海洋大気中の微量セレンの濃度分布(慶応大理
工) ○中村優・高砂尚彦・田中茂・橋本芳一
(16:05~17:05) 座長 加藤義久
- 1B19 瀬戸内海から外洋への重金属の輸送(東大海洋
研・広島大総合) ○下島公紀・坪田博行
- 1B20 瀬戸内海における²²⁸Raと²²⁶Raの分布と挙動(広
島大生物圏科学・東大海洋研・広島大総合)
○V. Kasemsupaya・野崎義行・坪田博行
- 1B21 有明海における干潮、満潮による海水の水質の
変化(佐賀大理工・佐賀短大) ○飯盛喜代春・
飯盛和代・太田完志
- 1B22 サンゴ礁の海の化学的研究(琉球大理) ○渡久
山章・与那覇善榮・平良直秀

C会場 一般講演

[岩石・地殻・マントル]

- (10:00~11:00) 座長 松田准一
- 1C01 石英粗粒子熱蛍光(TL)年代測定法における
いくつかの問題点(新潟大理) ○橋本哲夫・坂
井正・中田睦洋・小嶋素志
- 1C02 ⁴⁰K壊変定数の精密測定: 圧力及び化学結合効
果(東大理・東大核研・東大物性研) ○草場匡
宏・今村峯雄・八木健彦・小嶋稔・比屋根肇・
渡辺総
- 1C03 VG5400の調整と若い火山岩のK-Ar年代(岡山
大地球研) ○尾形亜津美・中村弥生・長尾敬
介・秋本俊一
- 1C04 VG5400質量分析計の調整と地調標準岩石の希
ガス同位体組成(岡山大地球研) ○中村弥生・
尾形亜津美・長尾敬介・秋本俊一

- (11:10~12:25) 座長 松久幸敬
- 1C05 テクタイト中の希ガス(神戸大自然科学・神戸
大理) ○松原佳代・松田准一
- 1C06 花崗岩の破壊実験において放出されるガス(名
大理) ○荒木雅己・永峰康一郎・杉崎隆一
- 1C07 中部地方の活断層から得られた断層粘土の酸
素、水素同位体比(富士大理) ○佐竹洋・府川
毅
- 1C08 接触変成作用における流体の移動—安定同位体
による新しい証拠—(静岡大理) ○有田陽子・
和田秀樹
- 1C09 Diopside-Forsterite-Magnetite-Calcite 系の酸素

同位体分別(岡山大地球研・シカゴ大) ○千葉
仁・T. Chacko・R.N. Clayton・J.R. Goldsmith
(13:30~14:30) 座長 高橋和也

- 1C10 Low-energy Electron Energy Loss Spectroscopy
of Mica-type Minerals(東大理) ○S. Moore・
只見康信・増田彰正・小間篤
- 1C11 鉱物の顕微可視・近赤外・赤外分光法(原研・
セキテクノトロン) ○中嶋悟・中田章
- 1C12 Dodsonの式の評価(東工大草津白根火山観測
所) 大場武
- 1C13 高温高压下において共存する珪酸塩鉱物—融液
間の微量元素の分配(愛媛大理・東北大理)
○森山純子・川辺岩夫・大谷栄治・藤野清志
(14:40~15:40) 座長 能田成
- 1C14 小笠原父島の無人岩のCe,Nd,Sr同位体比(東大
理) ○猿渡英之・清水洋・増田彰正
- 1C15 マルチコレクターによるセリウム同位体比の精
密測定(岡山大地球研) 牧嶋昭夫
- 1C16 チャート中のCe・Nd同位体比およびREE存在
度(東大理・名大理) ○天野雅代・清水洋・足
立守・増田彰正
- 1C17 河川堆積物分析値のコンピュータマッピングに
よる元素の地表分布パターン(地調) ○上岡晃・
田中剛・今井登・伊藤司郎
(15:50~16:50) 座長 宮樫茂子
- 1C18 広域風成塵由来の土壌のSr同位体組成(九大
農・九大理) ○溝田智俊・柳哮・浜本礼子
- 1C19 標準岩石試料の鉛同位体測定(岡山大地球研)
○小出良幸・中村栄三
- 1C20 微量ネオジム同位体測定とその地質学的应用
(岡山大地球研) ○柴田知之・牧嶋昭夫・中村
栄三
- 1C21 北フィージー海盆back arc basalt中のREEおよ
び同位体比組成(地調・フィニガンマッ) 野
原昌人・岡野修

D会場 一般講演

[地球外物質]

- (10:00~11:00) 座長 杉浦直治
- 1D01 Re-Os法による石鉄隕石の年代測定(東大理)
○平田岳史・清水洋・増田彰正
- 1D02 いん石中のハロゲン元素の分布(都立大理)
○篠永妙子・海老原充・中原弘道
- 1D03 隕石中の希土類元素およびYの分布(日本文理)
○米田成一・篠塚一典・三原久則・永井尚生・
本田雅健
- 1D04 やまと82162及び86720隕石の希土類元素組成
(神戸大理) ○山本鋼志・中村昇

- (11:10~12:25) 座長 海老原充
- 1D05 隕石物質を用いたアルカリ元素に関する蒸発突
験(Ⅳ)(神戸大理) ○島岡太郎・中村昇
- 1D06 アルカリ元素組成からみたAllende(CV3)コン
ドロールの溶融条件(神戸大理) ○松田均・中
村昇
- 1D07 普通コンドライト中の窒素同位体比(東大理)
○橋爪光・杉浦直治
- 1D08 清鎮エンスタタイトコンドライトのRb-Srアイ
ソクロン年代測定(東大理・科学博物館) ○鳥
越紀子・島正子
- 1D09 Argon-rich component in Fukutomi (L4) chon-
drite(山形大理・科学博物館) ○高岡宣雄・
島正子
(13:30~15:00) 座長 比屋根肇
- 1D10 グロー放電CVDによる合成物質中の希ガス組
成(神戸大理) ○鈴木克典・松田准一
- 1D11 気相成長ダイヤモンド中の希ガス同位体組成
(神戸大自然科学・神戸大理) ○福永一哉・松
田准一・伊東敬祐
- 1D12 衝撃合成ダイヤモンドについて(神戸大理)
○矢島春秋・松田准一
- 1D13 深海底堆積物中の太陽型HeとNe(神戸大理・
岡山大地球研) ○松田准一・室田美穂・長尾敬
介
- 1D14 深海底堆積物中の宇宙塵に含まれる希ガス(東
大理) ○二神常爾・小嶋稔
- 1D15 深海底堆積物中の石質スフェリュールの化学的
特徴(東大宇宙線研・獨協医大・神戸大理)
○三澤啓司・山越和雄・野上謙一・山本鋼志・
中村昇
[堆積物]

- (15:10~16:10) 座長 和田秀樹
- 1D16 屈斜路・摩周湖底質の元素組成と堆積環境(国
立公害研) ○田中敦・相馬光之
- 1D17 駿河舟状海盆底コアの加速器¹⁴C年代測定(名大
RIセンター・京大理・名大理) ○中村俊夫・志
岐常正・中井信之
- 1D18 堆積物中の硫黄・炭素・窒素の関係から堆積環
境をさぐる(地調) ○粕武・鈴木尉元
- 1D19 合成フミン酸及びポリマレイン酸のアメリシウ
ム(Ⅲ)との錯形成(東大理・フロリダ州立大)
○薬袋佳孝・G.R.Choppin
(16:20~17:05) 座長 北逸郎
- 1D20 堆積物の有機炭素の¹³C, C/N比及び加速器¹⁴C
代からみたMesoglaciation(名大理・名大RIセ
ンター・山形大教育) ○中井信之・太田友子・
馬場直美・楠聡・中村俊夫・前田保夫

- 1D21 愛知県弥富町堆積物コアの窒素同位体組成(富
山大理) ○平野光浩・吉田尚弘
- 1D22 南極ロス海マクマードサウンド地域から得られ
たボーリング試料の安定同位体研究(静岡大
理・九大理) ○和田秀樹・岡田博有

第2日(10月4日)

A会場 課題講演[マントル—地殻系の進化]
コンビーナー 小嶋稔

- (9:30~11:05) 座長 小嶋稔
- 2A00 コンビーナー挨拶 (5分)
- 2A01 スラブの下部マントル沈み込みについての地震
学的研究(東大理) 末次大輔 (30分)
- 2A02 地球初期の火成作用とマントルの化学的進化
(東工大理) 高橋栄一 (30分)
- 2A03 マントルの溶融分化に関する超高压実験地球化
学(東北大理) ○加藤工・大谷栄治 (30分)
(11:10~12:10) 座長 小嶋稔
- 2A04 原始地殻についてのLa-Ce系, Sm-Nd系および
REEパターンの特徴(東大理) ○清水洋・増田
彰正 (30分)
- 2A05 マントル—コアの進化における白金属トレーサ
について(地調) 田中剛 (30分)
(13:10~14:55) 座長 兼岡一郎
- 2A06 地球内外物質の斜長石組成と形成プロセス(山
口大理) 三浦保範 (15分)
- 2A07 海底玄武岩ガラス中の希ガスからみた地球大気
の起源(東大理・東大海洋研) ○比屋根肇・小
嶋稔・座主繁男・酒井均 (30分)
- 2A08 マントルの二層構造: ダイヤモンドの場合(東
大理・オープン大) ○小嶋稔・座主繁男・
S.R.Boyd (15分)
- 2A09 Magnetite中の希ガス(神戸大理) ○小方靖・
松田准一 (15分)
- 2A10 マントル中の²⁴⁴Puフィッション起源Xeとマン
トル脱ガス(東大理) 小嶋稔・○吾妻瞬一・比
屋根肇 (15分)
- 2A11 背弧海盆形成とマントル・地殻の進化(京都産
大教養・京大理) ○能田成・巽好幸 (15分)
(15:00~16:30) 座長 田中剛
- 2A12 年代と同位体比よりみた背弧海盆の進化(東大
地震研・東大理) ○兼岡一郎・野津憲治 (15分)
- 2A13 Back-arc地域におけるChemical Geodynamics
(岡山大地球研) 中村栄三 (15分)
- 2A14 水素及び酸素同位体比から見た伊豆—小笠原—
マリアナ弧前縁部海山の蛇紋岩化作用に關与し
た水の起源について(岡山大地球研・カナダ
ダレルハウジ大) ○酒井隆太郎・日下部実・能登

- 征美・石井輝秋 (15分)
- 2A15 群馬県西部, 相間川流域の新第三紀火山岩類の化学組成及びK-Ar年代(都立大理・岡山理大 蒜山研・群馬大教養)○海老原充・板谷徹丸・野村哲 (15分)
- 2A16 DCTAを用いた微量のSr同位体比測定とその地質学的应用(岡山地球研)○芳川雅子・中村栄三 (15分)
- 2A17 日本海の拡大・黒鉱/石油鉱床・変質作用(東北大理)箕浦幸治 (15分)

B会場 一般講演

[海洋・沿岸・生物]

(9:45~10:45) 座長 松田八束

- 2B01 海水など天然水中の有機態金属化合物に関する研究(近畿大理工・日本気象協会)○中勤・青野辰雄・中口譲・長井貴之・平木敬三
- 2B02 予備濃縮に活性炭カラムを用いた海水など天然水中のアミノ酸, 糖そしてピルビン酸の分別定量(近畿大理工・近畿大環境研)○青野辰雄・松政義高・平山宏・中口譲・平木敬三
- 2B03 東京湾における溶存有機物の分子量分布およびアミノ酸組成(農工大農)○小川浩史・小倉紀雄
- 2B04 横浜港におけるセディメントトラップ捕集物の元素組成の変動(横浜市公害研)○白柳康夫・大場栄次・大矢正代・福嶋悟

(10:55~12:10) 座長 中山英一郎

- 2B05 沿岸底質・懸濁物質のPIXEによる分析(大阪府立放射線中研)○松田八束・伊藤憲男・石山稔雄
- 2B06 海水および湾堆積物中希土類元素の分析—細管式等速電気泳動分析(IP)法適用のための試み—(大阪府立放射線中研・大阪市立大理)○石山稔雄・松田八束・清田俊治
- 2B07 海洋におけるヒ素の分布と存在状態について(近畿大理工)○山崎秀夫・合田四郎
- 2B08 沿岸海洋における赤潮発生に及ぼすセレンの分子種の影響(近畿大理工・和歌山県水産試験場・東京水産大)○中口譲・小池祐一・青野辰雄・竹内照文・石丸隆
- 2B09 アワビ貝殻における微量元素の季節変動(青山学院大理工・東京水産大)○竹中みゆき・斉藤裕子・山川紘・木村幹

[有機物]

(13:10~14:10) 座長 西村弥重

- 2B10 生物過程におけるアミノ酸の炭素・窒素安定同

- 位体組成の変化(三菱化成生命研)○南川雅雄・江川早穂
- 2B11 現世海洋炭酸塩堆積物の有機物組成の特徴(名大水圏研)○原田尚美・半田暢彦・伊藤雅彦
- 2B12 深海堆積物(北部北太平洋)中の有機物の研究—I. 脂質成分(都立大理)河村公隆
- 2B13 エクアドル沖柱状堆積物(ODP Hole 677A, 678B)の脂質成分の鉛直分布(創価大教育・都立大理)○山本修一・石渡良志

[堆積物]

(14:20~15:20) 座長 河村公隆

- 2B14 アブダビ地区サブカおよび浅海堆積物の化学組成(群馬大工・アブダビ石油)○相沢省一・鈴木正義・赤岩英夫
- 2B15 先カンブリア紀より第四紀の石灰岩の分析(甲南大理)日下譲・○宮本和法・辻治雄・玉利祐三
- 2B16 溶出実験法による石灰岩中のカルサイトとドロマイトの分別分析(甲南大理)○玉利祐三・樋口万里子・辻治雄・日下譲
- 2B17 炭酸カルシウム多形へのストロンチウムの分配挙動(新潟大理)○佐藤直哉・鈴木俊雄・澤田清

(15:30~16:30) 座長 増澤敏行

- 2B18 淡水産二枚貝へのマンガンの濃縮(愛知教育大・都立科技大)○吉岡小夜子・寺井稔
- 2B19 Fish bone debris粒中の希土類元素の濃度分布について(東大理)○豊田和弘・床次正安
- 2B20 高知県佐賀町の四万十帯から産した炭酸塩ノジュールを含む頁岩の化学組成(名大理・野田合板)○杉谷健一郎・杉崎隆一・足立守・川村忠史
- 2B21 マンガンバンドの化学組成と成因(名大理)○杉崎隆一・杉谷健一郎・足立守

C会場 一般講演

[大気・降水]

(9:45~10:45) 座長 加藤喜久雄

- 2C01 ヨウ素の土壌への吸着と脱離(放医研)○村松康行・内田滋夫・吉田聡
- 2C02 磷酸塩—水系における酸素同位体交換平衡定数及び交換速度について(東大海洋研)○朱慧・柳沢文孝・酒井均
- 2C03 大地からのRn放出速度の測定について(都立大理・山梨医大・北里環境科学センター)○堀内公子・石井忠・村上悠紀雄
- 2C04 南極氷床中の微量成分(名大水圏研・国立公害研・国立極地研)金森悟・○金森暢子・渡辺興

重・西尾文彦・西川雅高

(10:55~12:10) 座長 村松康行

- 2C05 大気中のガス状あるいは超微細粒子状金属化合物の分布およびその起源に関する研究(Ⅱ)(近畿大理工)○藤原一也・森田道隆・中口譲・平木敬三
- 2C06 南極大気エアロゾル中の微量成分(名大水圏研・国立公害研・国立極地研)○金森悟・金森暢子・西川雅高・渡辺興重・青木周司
- 2C07 中国の都市ならびに田園地帯の大気エアロゾル(埼玉大工・国立公害研・中国科学院生态环境研究中心・中国貴州省環境保護研究所)坂本和彦・○G.George・君島克憲・内山政弘・陳宗良・範増華・楊黔生
- 2C08 黄砂エアロゾルの化学組成(国立公害研・名大水圏研)○西川雅高・金森悟・金森暢子・溝口次夫
- 2C09 南インド水田地帯におけるHCH(BHC)・DDTの分布と挙動(愛媛大農)○立川涼・A.Ramesh・田辺信介

(13:10~14:10) 座長 廣瀬勝己

- 2C10 大気中の硫黄成分のキャラクタリゼーション(名大水圏研)○皆已幸也・金森悟・金森暢子
- 2C11 金沢における降水中硫酸イオンの硫黄同位体比(石川県衛生公害研・名大理)○北村守次・中井信之
- 2C12 降水および大気中の可溶性無機成分(東芝・広島大総合)○倉持淳美・坪田博行・藤原祺多夫・高橋日出男
- 2C13 福岡市における雨水中トリチウム濃度(九州環境管理協会・九大理)○平井英治・岡村正紀・松岡信明・白石直典・高島良正

(14:20~15:20) 座長 野尻幸宏

- 2C14 日本における降下物中の⁹⁰Sr,¹³⁷Csとプルトニウムについて(気象研・長崎海洋気象台)○高谷祐吉・青山道夫・廣瀬勝己・杉村行男
- 2C15 日本の主要河川水中のプルトニウムとセシウム同位体について(気象研・長崎海洋気象台)○廣瀬勝己・青山道夫・杉村行男

[環境]

- 2C16 鉱化地帯における重金属汚染の状況の解明(山形大理)○欧陽通・入江敏勝
- 2C17 環境大気中の水銀濃度に関する考察(千葉大理・横浜国大環境研)○中川良三・加藤龍夫
- (15:30~16:30) 座長 植松光夫
- 2C18 大気汚染関連試料の長期保存—環境試料バンク—(国立公害研)○安部喜也・西川雅高・向井人史

- 2C19 屋久杉年輪の炭素同位体組成の変化(名大水圏研)○北川浩之・松本英二
- 2C20 琵琶湖底堆積物に残された人間活動の同位体記録(名大理・名大RIセンター・滋賀県琵琶湖研)○清水敏春・中井信之・中村俊夫・前田広人
- 2C21 東京地域の路上堆積物(Street dust)中の多環芳香族炭化水素(PAHs)の分布および起源(農工大農)○高田秀重・穂田友子・小倉紀雄

D会場 一般講演

[鉱床・熱水]

(9:45~10:45) 座長 豊田和弘

- 2D01 Re-Os法による島根県東北地域モリブデン鉱床の年代学的研究(東大理)○鈴木勝彦・清水洋・増田彰正
- 2D02 新潟県中東地区のウラン濃集体における放射非平衡(地調)○金井豊・坂巻幸雄
- 2D03 北海道光竜鉱山(金・銀)の地化学探査(道立地下資源調査所)○管和哉・黒沢邦彦
- 2D04 塩酸と金属アルミニウムを用いる, 黄鉄鉱と黄銅鉱の化学的分離について(岡山大理)○山本雅弘・伊賀達郎

(10:55~12:10) 座長 清櫛保弘

- 2D05 低圧下における鉱物—水反応の圧力依存性について(東工大理・東大理)○篠原宏志・藤本光一郎
- 2D06 150℃におけるエレクトラムおよび輝銀鉱の水熱合成(東京学芸大教育・東大理)○中田正隆・本間久英・鹿園直建
- 2D07 種々な酸溶液に対する金の溶解(東大理・東京学芸大教育)○鹿園直建・本間久英・中田正隆
- 2D08 150℃におけるAu-Ag合金の6N HCl溶液へのAu, Ag溶解(東京学芸大教育・東大理)○本間久英・鹿園直建・中田正隆
- 2D09 酸性溶液による希土類元素の岩石からの溶出(上智大理工・武蔵工大原研)○木川田喜一・小坂知子・大井隆夫・垣花秀武・本多照幸

[熱水・温泉]

(13:10~14:10) 座長 蒲生俊敬

- 2D10 地熱熱水から生成したケイ酸質沈殿物中のアルミニウム(九大教養・九大理)○横山拓史・樽谷俊和
- 2D11 熱水の混合に関するダイアグラムとその熱水性鉱床への適用(兵庫教育大)渋谷靖弘
- 2D12 海水中における硫化鉱物の熱水生成反応(函館工専・東北大)○水上正勝・大森幸子・大本洋
- 2D13 沖縄トラフ海底熱水域周辺堆積物の化学組成と

- 堆積速度（琉球大理）○玉城祐一・大森保・平良初男
(14:20~15:20) 座長 鹿園直建
- 2D14 「しんかい2000」潜航調査による沖縄トラフ（伊是名海穴）海底熱水鉱床の化学組成と同位体組成（琉球大理・海洋科学技術センター・京大原子炉実）○大森保・平良初男・木村政昭・田中武男・小山陸夫
- 2D15 ハワイ島沖ロイヒ海山で得られた堆積物中の粘土鉱物と化学的特徴（大阪市大理・東大海洋研）○益田晴恵・酒井均
- 2D16 マンガンマイクロジュールの化学組成に示された中部太平洋における局所的熱水活動（名大理）○堀内佳邦・杉谷健一郎・杉崎隆一
- 2D17 埋積海嶺の海底熱水活動：ゴルダ海嶺・エスカナバトラフの熱水と硫化物（東大海洋研・東大理・MIT）○蒲生俊敬・石橋純一郎・柳沢文孝・佐野有司・脇田宏・酒井均・J.M.Edmond
(15:30~16:30) 座長 篠原宏志
- 2D18 北フィジー海盆の海底熱水の化学（東大理・国立公害研・東京水産大・東大海洋研）○石橋純一郎・野尻幸宏・河合崇欣・大槻晃・酒井均
- 2D19 本邦周辺海底熱水系に伴う大型生物の $\delta^{34}\text{S}$ について（東大海洋研・海洋科学技術センター）○金銀洙・柳沢文孝・酒井均・太田秀・橋本淳
- 2D20 有機酸による硫酸の無機還元と硫黄同位体効果（名大理・カリガリー大）○清棲保弘・H.R.Krouse
- 2D21 岐阜県下呂温泉における温泉水の化学成分と酸素同位体組成の関係について（岐阜県衛生研・名大水圏研）○寺尾宏・清水英徳・加藤喜久雄

総会 (16:45から)

第3日 (10月5日)

A会場 課題講演 [星間分子, 太陽系始原物質]
コンピーナー 増田彰正

- (9:30~10:50) 座長 坂田朗
- 3A01 CI炭素質コンドライトのマトリックス物質（東大理）留岡和重 (20分)
- 3A02 変動的星雲過程の証拠としてのAllende(CV3)複合コンドライト（神戸大理）○中村昇・松田均 (20分)
- 3A03 南極炭素質隕石中の有機化合物と原始太陽系におけるその化学進化（筑波大化学）○下山晃・奈良岡浩・古宮正利・原田馨 (20分)
- 3A04 炭素質コンドライト中の有機高分子化合物の分光学的手法による研究（東大理）○村江達士・

- 増田彰正 (20分)
(11:00~11:40) 座長 坂田朗
- 3A05 彗星物質とその起源（宇宙科学研）山本哲生 (40分)
(13:30~15:30) 座長 下山晃
- 3A06 彗星の有機物質—comet Halley, comet Wilson, comet Bradfieldの $3\mu\text{m}$ 観測のスペクトル解析（電通大・ハワイ大）○坂田朗・和田節子・A.T. Tokunaga (25分)
- 3A07 老化した星の周りのダスト形成—原始太陽系の塵の前駆物質の生成（電通大）○和田節子・坂田朗 (25分)
- 3A08 星間分子の観測と実験室分光（国立天文台野辺山）川口建太郎 (40分)
- 3A09 おうし座暗黒星雲TMC1での HC_3N の ^{13}C 同位体種の観測—炭素同位比と ^{13}C のケミカルフラクション—（名大理・東大理・国立天文台野辺山・富山大理）○高野秀路・平原靖大・増田彰正・鈴木博子・大石雅寿・石川晋一・海部宣男 (15分)
- 3A10 おうし座暗黒星雲TMC1における炭素鎖生成領域の構造（東大理・名大理・富山大理・国立天文台野辺山）○平原靖大・増田彰正・山本智・高野秀路・大石雅寿・石川晋一・海部宣男 (15分)

B会場 一般講演
[陸水]

- (9:30~10:30) 座長 松永捷司
- 3B01 森林山地流域における天然水の同位体組成（筑波大地球科学・岡山地球研）○三條和博・日下部実
- 3B02 安定同位体を用いた流出成分分離の方法（京大理・富山大・京大）○斉藤隆志・水谷義彦・奥西一夫
- 3B03 地下水中の亜酸化窒素 (N_2O) の窒素安定同位体比（農工大農・三菱化成生命研）○上田真吾・小倉紀雄・和田英太郎
- 3B04 山口県秋芳洞地下水の地球化学的研究（九大教養・九大農）○吉村和久・井倉洋二
(10:40~11:40) 座長 小倉紀雄
- 3B05 南極の塩湖の主成分分析（東大教養）○角田晋也・綿菰邦彦
- 3B06 琵琶湖水中におけるバリウムの特異的分布（京大教養・京大化研）○杉山雅人・堀智孝・木原壮林・松井正和
- 3B07 天然水中のアンチモン化合物の存在状態及び濃度分布（慶応大理工）○山本政宏・松園義明・

- 中村優・田中茂・橋本芳一
- 3B08 河川水中の微量元素の溶存形態の分析（都立アイソトープ研・東京都環境研）○谷崎良之・山崎正夫・下川利成
[岩石・地殻・マントル]
(13:30~15:00) 座長 米田成一
- 3B09 砂鉄中の微量元素の分布（武蔵工大原研・国立歴博）○伊藤和寛・平井昭司・田口勇
- 3B10 GSI岩石標準試料「堆積岩シリーズ」の化学組成（地調・JAROS）○寺島滋・安藤厚・伊藤司郎
- 3B11 放射化分析による地質調査所岩石標準試料のクロム含有量の再評価（地調）○富樫茂子・上岡晃・田中剛
- 3B12 岩石試料のホウ素同位体比測定（岡山地球研）○石川剛志・中村栄三
- 3B13 ホウ素鉱物のホウ素同位体組成（上智大理工・東工大原研）○武蔵正明・大井隆夫・野村雅夫・小坂知子・岡本真実・垣花秀武
- 3B14 ホウ素鉱物生成過程におけるホウ素同位体分別（上智大理工・東工大原研）○加藤淳平・武蔵正明・小坂知子・大井隆夫・野村雅夫・垣花秀武

C会場 一般講演
[有機物]

- (9:30~10:30) 座長 福島和夫
- 3C01 種々の岩石中の軽質炭化水素の移動についての実験的考察（地調）○猪狩俊一郎・坂田将
- 3C02 DTA/TG-GC/MS法による新庄盆地新第三紀の堆積岩中のケロジェンの研究（筑波大化学）○古宮正利・下山晃・原田馨
- 3C03 ヤングケロジェンの熱変化の化学：（1）N化合物の挙動を中心として（都立大理・石油公団石油開発技術センター）○石渡良志・菅原智・町原勉
- 3C04 ヤングケロジェンの熱変化の化学（2）モデル系（脂肪酸アミド）の加熱実験（都立大理・石油公団石油開発技術センター）○菅原智・石渡良志・町原勉
(10:40~11:40) 座長 坂田将
- 3C05 津軽盆地の新第三系有機物相（弘前大教養・弘前大理）○氏家良博・神宮宏
- 3C06 南極マクマードドライバレーに存在する endolithic biological communities中の長鎖アンチイソ炭化水素および脂肪酸（東大教養・フロリダ州立大）○松本源喜・E.I.Friedmann・綿菰邦彦

- 3C07 現世堆積物中におけるNon-Solvent Extractable脂質の起源及び地球化学的特性—ブラジルリオドッセ湖沼群の表層堆積物中の脂肪酸（愛知学院大・大阪教大・愛知大・北方電力・ミナスジェライス大・サンパウロ大）○西村弥亜・三田村緒佐武・西条八東・K.Hino・F.A.R. Barbosa・J.G. Tundisi
- 3C08 現世堆積物からのイソプレノイド・チオフェン（都立大理）○福島和夫・安川正子
(13:30~14:45) 座長 松本源喜
- 3C09 琵琶湖で生産される脂質の脂肪酸組成について（名大水圏研・滋賀琵琶湖研）○濱健夫・松永捷司・半田暢彦・高橋幹夫
- 3C10 榛名湖表層堆積物中の脂質成分（都立大理）○上村仁・石渡良志
- 3C11 霞ヶ浦湖底堆積物に含まれる有機物—II（地調）○寺島美南子・井内美郎
- 3C12 沿岸堆積物中の脂質成分の分布について（長崎大教育・都立大理・創価大教育・石油公団石油開発技術センター）○近藤寛・石渡良志・山本修一・町原勉
- 3C13 泥炭土壌の腐植化と炭素安定同位体変動（日大農獣医・三菱化成生命研）○片瀬隆雄・和田英太郎

D会場 一般講演
[火山]

- (9:30~10:30) 座長 長尾敬介
- 3D01 北関東ローム層中の化学成分（群馬県衛生公害研）斎藤武夫
- 3D02 やまと隕石氷原地域火山灰層の対比（学習院大理・群馬大教育・国立極地研）○福岡孝昭・清水一哉・新井房夫・西尾文彦
- 3D03 レーザー加熱—QMS法による火山岩斑晶中のガラス包有物に含まれる揮発性物質の分析（岡山地球研）○斎藤元治・日下部実
- 3D04 火山噴火とヘリウム同位体比変動（東大理）○野津憲治・佐野有司・五十嵐丈二・石橋純一郎・脇田宏
(10:40~11:40) 座長 五十嵐丈二
- 3D05 トルコ北部・西部のガス試料中の希ガス及び CO_2 の炭素同位体比（岡山地球研・秋田大鉱山・神戸大理・トルコMTA）○長尾敬介・北逸郎・松田准一・T.Ercan
- 3D06 トルコにおける地熱地域のバブルガスと水の化学および同位体組成（秋田大鉱山・岡山地球研・神戸大理・トルコMTA）○北逸郎・長尾敬介・松田准一・T.Ercan

- 3D07 カメルーン・ニオス湖再訪(1988年12月)(岡山
山大地球研・東工大草津・広島大総合・東大
理・国立公害研・東工大理・Yaounde Univ.)
○日下部実・平林順一・佐藤博明・佐野有司・
野尻幸宏・篠原宏志・T.Njine
- 3D08 ニオス湖湖水の化学成分組成とフラックス(国
立公害研・岡山大地球研・東工大草津・広島大
総合・東大理・東工大理)○野尻幸宏・日下部
実・平林順一・佐藤博明・佐野有司・篠原宏志
[火山・自然災害]
- (13:30~14:30) 座長 野津憲治
- 3D09 日本および世界の活動的火口湖—噴火予知のた
めの予備的調査—(東大教養)高野穆一郎・
○大沢信二・綿菰邦彦
- 3D10 松山における地震化学観測:水素(H₂)ガス
異常(愛媛大理)○川辺岩夫・梶原理香・大川
俊彦
- 3D11 地震予知のためのパーソナルコンピューターを
用いた温泉ガス自動観測システム(名大理)
○永峰康一郎・杉崎隆一
- 3D12 地震に関連した地下流体の変動について(名大
理)○瀬原淳一・永峰康一郎・杉崎隆一
- (14:40~15:40) 座長 川辺岩夫
- 3D13 地震に伴う地下水位変化(東大理)○五十嵐丈
二・脇田宏・野津憲治・佐野有司
- 3D14 びわ湖沿岸部における漏出地下水、間隙水およ
び地下水の化学組成について(京大防災研)
吉岡龍馬
- 3D15 長野県地附山地すべり地における天然水の化
学・同位体組成について(京大防災研・飯山市
立中学校)吉岡龍馬・○真嶋清隆
- 3D16 長江流域の地すべり地の湧水の化学的性質(新
潟大積雪地域災害研)佐藤修

ポスターセッション

(掲示:会期中,討論時間:10月5日 11:45~12:30)

- P01 富山において一雨毎に採取した一年間の降水の
同位体比と化学組成(富山大理)○佐竹洋・坂
本典子
- P02 南極域における大気エアロゾル中の炭素含量
(国立公害研・名大水圏研・国立極地研)○西
川雅高・溝口次夫・金森悟・金森暢子・青木周
司・川口貞男
- P03 砂漠に二酸化炭素を固定する(地調)田中剛
- P04 南極産ユレーライトの微量元素存在度(都立大
理)○海老原充・篠永妙子
- P05 伊東沖海底噴火('89.7.13)にともなう初島沖
の海底の異変について:淡青丸KT89-11航海報

告(東大海洋研・東大地震研・名大水圏研・川
崎地質・広島大総合・京大理・高知女子大・京
大化研)○蒲生俊敬・藤岡換太郎・山野誠・増
澤敏行・木下正高・金銀洙・古家英・山口俊
哉・竹内和久・中山英一郎・一色健司・宗林由
樹・吉田晴子・安江篤子

- P06 「しんかい2000」による沖縄トラフの熱水の採
取とその化学的性質(序報)(東大海洋研・東
大理・東大地震研・海洋科学技術センター・琉
球大理)酒井均・○蒲生俊敬・金銀洙・下島公
紀・柳沢文孝・堤真・石橋純一郎・脇田宏・山
野誠・松本剛・田中武男・大林保
- P07 沖縄トラフ(伊平屋海凹)海底熱水域で採集さ
れた炭酸塩マウンド物質について(琉球大理・
海洋科学技術センター・岡山大地球研・京大原
子炉実)○大森保・田中武男・木村政昭・日下
部実・平良初男・小山睦夫
- P08 熱水条件下でのホウケイ酸ガラスと海水の反応
(東大海洋研)○柳沢文孝・酒井均
- P09 250,300℃・飽和蒸気圧条件下で海水・地下水
と反応させた流紋岩表面の変質(東大海洋研・
地調)○柳沢文孝・酒井均・青木正博・松久幸
敬
- P10 登別温泉深部熱水のNa-K-Ca温度の経時変化
(室蘭工大)我孫子勤
- P11 低温噴気孔ガスの測定(雙葉学園)高江州登
- P12 草津白根火山のK-Ar年代層序(地調)○宇都
浩三・松本哲一・内海茂
- P13 島弧—海溝系における低角衝上型巨大地震と地
下水異常(愛媛大理)川辺岩夫
- P14 $\epsilon_{\text{Ce}}-\epsilon_{\text{Nd}}$ プロットにおけるREEパターン推測
用定規(東大理)赤木右・○猿渡英之・天川裕
史・清水洋・増田彰正
- P15 可変式マルチコレクター表面電離型質量分析計
MAT262による同位体比測定システムと標準岩
石試料の測定例(フィニガンマツト)○岡野修・
金沢延行・土佐礼子・松本普
- P16 元素分析計直結(C, N)同位体比質量分析計と
その性能(フィニガンマツト)○土佐礼子・大
堀基己・岡野修・松本普
- P17 海洋におけるモリブデンのキャラクタリゼー
ション(近畿大理工)○山崎秀夫・合田四郎
- P18 相模湾初島沖シロウリガイ群集堆積物間隙水の
化学組成(名大水圏研・岡山大地球研)○増澤
敏行・半田暢彦・北川浩之・日下部実
- P19 土壌中のテルルの分布(慶応大理工)○関根嘉
香・鶴見賢治・杉野文祐・橋本芳一

参加費 日本地球化学会会員 1,000円,
会員外 2,000円, 学生 無料。

講演要旨集代 一冊 4,000円。

問合せ先 〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部化学教室 1989年度
日本地球化学会年会準備委員会 清水洋
電話 (03) 812-2111 内線 4350,4351
FAX (03) 814-2627
(東京大学理学部化学教室事務室)

Geochemical Journalの在庫整理に伴う バックナンバーの廉価販売について

Geochemical Journalのバックナンバーは、学会事務
センターの書庫で保管しており、いつでも学会事務セ
ンターから購入することができます。バックナンバー
の保有数には冊子ごとにならばつきがあり、ほと
んど無いものから200冊以上のものまであります。ま
た、年毎の保管部数の増加は、保管料の増加として地
球化学会の会計にはねかえってきております。このよ
うな事情を考慮して、評議員会では、Vol.20(1986)以
前に刊行された分について、それぞれ100冊を限度に
整理することを決めました。つきましては、本年10月
3—5日に開催される年会開場において、整理対象の
冊子を廉価(個人は1冊500円,公共の図書室等は無料)
で配布致しますので、ご利用下さい。なお、年会に参
加されない方も含め、事前に連絡頂ければ、優先的に
確保致します。但し、今回の配布部数には制限があり
ますので、ご希望に添えない場合もありますので、あ
らかじめご了承下さい。

今回配布できる冊子は、以下の通りです。

- Vol. 1, No.1, 2, 3, 4
Vol. 2, No.1, 2, 3/4
Vol.10, No.1, 2, 3, 4
Vol.11, No.1, 2, 3, 4
Vol.12, No.1, 2, 3, 4
Vol.13, No.1, 2, 3, 4, 5, 6
Vol.14, No.1, 2, 3, 4, 5, 6
Vol.15, No.1, 2, 3, 4, 5, 6
Vol.16, No.1, 2

この件に関する問い合わせは、下記にお願いします。
野津憲治(会計担当幹事)
〒113 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学理学部地殻化学実験施設
TEL 03-812-2111 (ext.4624)
FAX 03-816-1784

1990年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」 の受賞候補者の推薦依頼について

- 1.本賞は自然科学の分野で、顕著な業績を収めた女性
科学者(ただし、下記の推薦締切日で50才未満)に
贈呈します。
- 2.規定の用紙に候補者の略歴、推薦理由(400字程度)、
主な業績文献リスト等を記入して、1989年11月末日
必着で、お送り下さい。166 東京都杉並区高円寺北
4-29-217 女性科学者に明るい未来をの会
電話 03-330-2455

広島大学総合科学部教官公募

自然環境研究講座助教授または講師1名。教育担当
:専門(地球化学)一般(化学)大学院生物圏化学研
究科(海域環境学)。専門分野:海域を中心とした水
圏の地球化学の研究。とくに、物質の輸送過程や化学
過程の研究を進めており、環境科学の他分野と共同研
究を行い得る人を望む。公募締切:平成元年9月30日。
採用予定:なるべく早い次期。提出書類:履歴書、業
績リスト、論文別刷、現在までの研究概要と将来の研
究計画書、推薦状(又は照会先)。提出先:730広島市
中区原千田町1-1-89広島大学総合科学部長天野實
(封筒に「地球化学教官応募」と朱書のこと)。問合せ
先:同学部坪田博行(電話(082)241-1221内線2215,
FAX(082)244-5170)

1989年度第1回日本地球化学評議員会議事録

日 時:1989年2月18日 17時~20時

場 所:赤門学士会館

出席者:一國雅己会長、大隅多加志、小嶋 稔、
兼岡一郎、木越邦彦、鈴木 款、杉崎隆一、
高野穆一郎、田中剛、角皆静男、中山英一郎、
野津憲治、松葉谷 治、松久幸敬、松本英二、
柳 哮 各評議員、鳥居哲也幹事

I. 前回の議事録を承認した。

II. 報告事項

1. 幹事会(高野評議員)

* 2月8日16:00—20:00東京大学教養学部において
幹事会を開き、次回評議員会の議題の整理と検討を
行った。一國会長、綿抜副会長、高野、野津、松久、
石渡、小倉の各幹事が出席した。

2. 庶務（高野評議員）

*GJ. Vol.23, No.1-6刊行費補助金を総額2397000円として文部省に提出した。

*学術会義地質科学総合研連より「今後審議すべき問題」に付いての諮問に対し答申した。

*12月6日東京大学山上会館で開かれたAGUが主催する「1990 Western Pacific Geophysics Meeting」に関する意見交換会に出席した。

3. 編集

（松久評議員）

*GJ.Vol.22 No.5は印刷の段階。No.6は年度末に間に合う予定である。

Vol.23のうち1号は特集号としたい。2テーマの応募があった。

（石渡評議員代理高野評議員）

*『地球化学』22巻2号は発行済み。23巻1号は原田（奨励賞）、松尾（記念講演）論文およびIGBP総括記事（松本、野崎）を掲載する予定である。

4. ニュース（鈴木評議員）

*116号は2月20日に印刷に回し3月10日までに発送の予定である。

*学会賞の応募締切を4月15日とする旨を掲載した。

5. 学術会誌

*地球化学宇宙化学研連関係（角皆評議員）

会合が一回開かれ、増田彰正委員が委員長に選出された。地球科学内で化学の重要性が認識されてきている。

6. IGBP小委員会（松本評議員）

小委員会の活動状況について報告があった。

III. 議事

1. 入退会

*入会（13名）殷 建華・上野 証、大井隆夫・大場武・岡村正紀・紀本岳志・金正・高橋 章・中村清・中山英二・山垣浩司・渡辺啓一・森山純子

*退会（8名）大江純司・小椋英明・岡野武雄・島田利夫・林 高湧・箕輪勉夫・山崎正男・種田道夫、以上を承認。会員現況は以下のとおり

会員計報

鎌田政明会員、大久保隆会員の逝去の報に接しました。本会はここに謹んで哀悼の意を表しますとともにご冥福をお祈り申し上げます。

	正会員	賛助会員	名誉会員	計
1988年9月1日	886	12	6	904
入会	13	0	0	13
退会	8	0	0	8
1988年12月31日	891	12	6	909

2. 評議員の委嘱

*新潟大学 鈴木俊雄会員に1989年2月18日から1989年12月31日まで日本地球化学会評議員を委嘱することが一国会長から提案され承認された。

3. 選挙管理委員会の設置について

*1990-1991年度日本地球化学会役員選挙を実施するための選挙管理委員の選出を行い、大隅多加志、兼岡一郎、梶原良道評議員を選出した。

4. 春季シンポジウムおよび年会について

*1989年度春季シンポジウムおよび懇談会を4月10日（月）東京大学山上会館において開催することが承認された。

*1989年度年会は10月3, 4, 5日に東京大学教養学部において増田彰正評議員を実行委員長として開催されることが承認された。

*1990年度年会は1990年10月1, 2, 3日に新潟大学において鈴木俊雄評議員を実行委員長として開催されることが承認された。

5. 名簿の発行

*1989年度会員名簿の発行原案が承認された。

6. AGUへの代表選出について

*1990年8月AGUが日本で開催予定の国際会議（1990 western Pacific Geophysics Meeting）へ地球化学会からOrganizing Committee Memberとして松尾禎士会員を、またProgramme Committee Memberとして松久幸敬評議員を選出した。

7. GJ., 地球化学の保管について

*学会事務センターその他に保管されている当学会発行の雑誌の保管方法について論議がなされ幹事会で具体案を検討することとした。

（以上）

編集者 鈴木 款

〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所地球化学研究部
電話 0298 (51) 7111

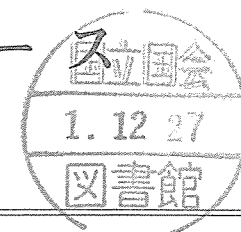
発行所 日本地球化学会

〒113 東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル（4F）
日本学会事務センター内
電話 東京 03 (817) 5801

日本地球化学会ニューズ

No. 119

1989. IX. 30



1990年度日本地球化学会春季シンポジウム

主催 日本地球化学会

日時 1990年4月7日（土）9:30~17:00

会場 東京工業大学大岡山キャンパス

本年度は地球惑星科学関連学会合同大会の会期中に開催されます。

講演

午前の部 9:30~12:30

一般講演 10件程度公募します！

（申込多数の場合には調整させていただきます。）

午後の部 13:30~17:00

招待講演 数件

講演申込み締切日 1990年2月1日（木）

申込み後講演原稿用紙をお送りします。

申込先 〒183 東京都府中市幸町3-5-8

東京農工大学農学部

小倉 紀雄

TEL 0423-64-3311(内線516)

FAX 0423-60-8830

詳細は次号ニュースでお知らせ致します。
奮ってご参加下さい。

.....切りとり.....

春季シンポジウム講演申込み書

題目 _____

指名・所属 _____

1990年2月1日までに講演申込み先にお送り下さい。

地球惑星科学関連学会合同大会

主催 地震学会、地球電磁気、地球惑星圏学会、火山学会、測地学会、地球化学会

日時 1990年4月6日(金)～8日(日)

場所 東京工業大学大岡山キャンパス

合同大会では以下の様な共通セッション・シンポジウムが企画されています。講演希望者は各世話人宛、直接申し込んで下さい。

講演申込み締切日 1990年2月1日(木)

共通セッション・シンポジウム一覧表

セッション名	関連学会(*)
主世話人(原稿送付宛先)／副世話人	
世話人から投稿者への呼びかけ	

表の内容

注(*)：電磁気＝地球電磁気・地球惑星圏学会

(ア)惑星・衛星の起源と進化	地震、電磁気、火山
松井孝典(〒113 文京区弥生2-11-16 東京大学理学部地球物理学教室) 中川義次(東大理)	
アポロに続く惑星探査の成果の上に、太陽系の起源と進化が実証的に議論され始めている。各学会の合同大会でこれまでの成果を総合的に議論することは大変意義深い。	

(イ)地球内部構造	地震、電磁気、火山、地球化学
川崎一郎(〒930 富山市五福3190 富山大学理学部地球科学教室) 浜野洋三(東大理)	
マントルやコアにおける対流の軌跡である地震波速度や電気伝導度等の横・垂直方向の変化を明らかにし、また、物質科学との協力により、そのメカニズムに迫りたい。	

(ウ)テクトニクス	地震、電磁気、火山、測地、地球化学
瀬野徹三(〒113文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所) 乙藤洋一郎(神戸大理) 多田堯(地理院)	
海洋地域のテクトニクス(DDP-DELPの成果、緑海・西太平洋地域の発達史等)、島弧・大陸地域のテクトニクス、地震・ネオテクトニクス等、テクトニクス全般を含む。	

(エ)地殻変動	地震、測地
岡田義光(〒305つくば市天王台3-1 国立防災化学技術センター 第2研究部) 竹本修三(京大理)	
地球規模から地震火山活動に関連してローカルな地殻変動まで、あらゆる時空間スケールにおける地殻変動の検出技術、観測成果並びにその解釈に関するテーマを求む。	

(オ)重力	地震、測地
河野芳輝(〒920金沢市丸の内1-1 金沢大学理学部地学教室) 里村幹夫(静岡大教養)	
重力の測定法、重力異常、重力変化、ジオイド、地球潮汐など、重力およびその利用に関するあらゆる講演を募集します。	

(カ)電磁場で見た地殻・マントル・核	電磁気、測地
笹井洋一(〒113文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所) 田中 稔(地理院)	
地殻の構造を磁気異常から、地殻とマントルを誘導電磁場から、核の流体運動とダイナモ作用を主磁場の形態と永年変化(現在のみならず地質時代まで含む)から探る。	

(キ)地震予知・火山噴火予知	地震、電磁気、火山、地球化学
岡田 弘(〒052-01有珠郡壮瞥町壮瞥温泉59 北海道大学理学部有珠火山観測所) 吉田明夫(気象研) 野津憲治(東大理)	
予知研究は着実な成果を積み上げてきた。しかし社会の要求に答えるためには尚解決すべき基礎研究の推進と観測の充実が望まれる。予知研究の現状と将来を議論したい。	

(ク)火山活動	地震、電磁気、火山、地球化学
浜口博之(〒980仙台市荒巻字青葉 東北大学理学部 地震予知・噴火予知センター) 渡辺秀文(東大震研)	
伊豆半島周辺をはじめとする最近の火山活動、及び、火山活動に関連する問題全般についての観測・調査・実験理論など多様なアプローチによる講演を歓迎する。	

シンポジウム： 『地球中心核』	地震、電磁気、火山、測地、地球化学
深尾良夫(〒464-01名古屋千種区不老 名古屋大学理学部地球化学教室) 本蔵義守(東工大理) 八木健彦(東大物性研)	
マントル下部を含む構造、超高压実験、核流体運動とダイナモ、核形成過程、D" 歴の形成と不安定性等、核とその境界域の諸問題を総合的に追求する研究を歓迎する。	

なお、合同大会のもう一つの特別企画として、つぎの講演が予定されています。

- ① H.Sigurðsson氏(ロードアイランド大学教授)
テーマ：『地球環境に及ぼす火山噴火の影響について』(仮題)
- ② 松野太郎氏(東京大学教授)
テーマ：『地球規模の大気環境の変化』(仮題)

共通セッション用予稿原稿の書式

←30mm→		↑20mm	
空	白	題目	著者・所属(和文)
		↑30mm	
		↓	
←20mm→	空	白	題目
		↑30mm	
		↓	
本文(和文または英文) 注：英文の場合は、2 段分けしない。			
		↑10mm	
		↓	
		↑20mm	

第7回地質年代学・宇宙年代学・同位体地学国際会議派遣研究者応募要領について

本奨励金選考委員会は、1990年9月24日から9月29日、オーストラリアCanberraで開催される標記国際会議に出席する者に対して、下記により渡航費の援助を行います。

(1)応募資格 1950年1月1日以降に出生の国内研究者。ただし、1st Authorとして二つ以上の論文を申し込むことはできません。(国内研究者とは、対象となる研究の主要部分を国内の研究機関で行ったものを指す。国籍は問わない。)

(2)派遣研究者の数と援助額 約10名程度に総額300万円以内。

(3)報告義務 帰国後、簡単な報告をうけます。

(4)選考方法 応募者は、1989年度質量分析同位体比部会研究会(1990年3月26(月)～28(水)、箱根静雲荘)において国際会議発表予定論文を英語で口頭発表(講演20分+討論10分を予定)していただき、選考委員会(小嶋委員長以下10名)で派遣候補者を選考します。内定者の中から、国際会議のプログラム決定後に最終決定をいたします。

(5)応募方法 Canberraへ送るAbstract Formのコピーを添え、2月18日までに同位体比部会研究会の申し込み用紙とともに提出して下さい。詳細については下記にお問い合わせ下さい。

〒113 東京都文京区弥生2-11-16
東京大学理学部地球物理学教室
小嶋 稔、又は杉浦 直治
(TEL 03-812-2111 内4300, 4307
FAX 03-818-3247)

1990WPGM

1990Western Pacific Geophysics Meeting

国際地球物理金沢会議

開催日：1990年8月21日（火）～25日（土）

開催場所：石川県金沢市

主催：AGU, 日本海洋学会, 日本火山学会, 日本気象学会, 地震学会, 日本測地学会, 日本地球化学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本地質学会, 陸水グループ

後援：石川県

【開催主旨】

この度American Geophysical Union (AGU)からの提案をきっかけに, AGUとわが国の地球物理関係学会が一致協力して, 米国, カナダを始めとしてわが国並びに日本近隣諸国の研究者を対象とした地球物理関係の国際会議を開催することになりました。わが国としては地球物理関係の学会の数は上記の主催学会名からもわかりますように多数に分かれて活動しておりますが, ほとんど横のつながりが無い現状であります。今回AGUからの提案をきっかけに各学会同志の協力を深め, 引いてはわが国の地球物理関係分野の研究のアクティビティーを一層高めて行こうというのがこの国際会議開催の主旨であります。多数ご参加下さるよう期待しております。

この会議はAGUのannual meetingのやり方を踏襲し, 講演申込は総てAGUのCall for Papersのruleに従って行われます。AbstractはAGUのEOSの一分冊として印刷されます。

【関連分野】

Atmospheric Sciences(As)

Geodesy(G)

Geomagnetism and Paleomagnetism(GP)

Hydrology(H)

Ocean Sciences(O)

Planetology(P)

Seismology(S)

Solar Terrestrial Relationships(STR)

Tectonophysics(T)

Volcanology, Geochemistry, and Petrology(VGP)

各々の分野ではトピックスに従ったspecial sessionが企画されており, また分野にまたがったspecial sessionsも検討されています。

【講演, 参加申込料, 期限】

AbstractおよびAbstract fee (1件\$40 (但し学生\$30)):

送付メ切: Feb.14, 1990

宛先: American Geophysical Union, 2000 Florida Avenue, N.W., Washington D.C., U.S.A.

参加登録申込: Registration feeはJune 21, 1990までに払い込まれた場合14,000円 (学生は7,000円), それ以降は17,000円 (学生は8,500円) となります。

Abstractの形式, 申込方法, 参加登録申込書等は1990年12月頃各主催学会を通じて配布される予定です。しくは実行委員会 (下記) または各所属学会にお聞き下さい。

【組織委員会 (OC)】

(AGU側) C.Harrison*, A.F.Spilhaus, I.G.Roederer (日本側) 木村磐根* (地球電磁気・地球惑星圏学会) 永田 豊 (日本海洋学会), 荒牧重雄 (日本火山学会) 浅井富雄 (日本気象学会), 安藤雅孝 (地震学会), 中 稔 (日本測地学会), 松尾禎士 (日本地球化学会) 平 朝彦 (日本地質学会), 竹内邦良 (陸水グループ) (*AGUおよび日本側組織委員会代表)

【プログラム委員会PC】

(日本側) 本蔵義守 (GP), 木村龍治 (AS), 坂野一 (G), 田瀬則雄 (H), 永田 豊 (O), 水谷仁 (P), 松浦充宏 (S), 福西 浩 (STR), ゲラーロバート 平 朝彦 (T), 高橋栄一, 松久幸敬 (VGP) (括弧内は分野, *は代表)

【実行委員会 (LOC)】

木村磐根* (京都大工), 満保正喜, 高瀬信忠, 長勇 (金沢大工), 河野芳輝 (金沢大理), 本蔵義守 (京工大工), 松本 紘 (京都大超高層), 佐藤亨 (京工大工) (*委員会代表)

【OC, LOC連絡先】

〒606 京都市左京区吉田本町

京都大学工学部電気工学第2学科 木村磐根 (Tel) 075-753-5348 (Fax) 075-751-8201

【PC連絡先】

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学理学部応用物理学科 本蔵義守 (Tel) 03-726-1111 (2341) (Fax) 03-729-0162

IGCニュース NO.1 (第2版) 第29回万国地質学会議の概要

1989年11月

第29回万国地質学会議事務局

まえがき

今年7月の第28回IGC (ワシントン) において第29回の日本開催が正式に決まりました。これを受けまして私達は1992年IGC (京都) に向けて準備を開始いたしました。その概要を本欄をお借りしてお知らせし, 合せて皆様方の御意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

会議の名称

第29回万国地質会議 (29th International Geological Congress. 略称29th IGC)。

会期・会場

1992年8月24日 (月) から9月3日 (木), 国立京都国際会館。

会議の内容

万国地質学会議は, 第1回が1878年にパリで開催されて以来, 本年1989年の第28回 (アメリカ合衆国ワシントンD.C.) まで続いている地質科学最大の国際学会で, 地質学のみならず関連する地球科学の諸分野を網羅する。取り扱うテーマは純学術的なものから, 資源・海洋・土木・建設・環境などの応用分野まで, 広範囲にわたっている。日本で開催される次回第29回会議は, 初めて弧状列島という地球科学的環境で行われるため, 活動的プレート境界域の現象に討議の焦点を合わせると同時に, 先端的な地球科学関連の応用面でのテーマをも積極的に取り上げることとしている。

また会期の前後に, それぞれ1週間程度の地質巡検を行うように定められており, 開催国および周辺諸国で数10コース程度の現地見学旅行を行うことになっている。

会議の主催団体

この会議は会議開催ごとに開催地に設置される組織委員会が主催団体となって組織運営にあたることとなっている。したがって第29回万国地質学会議組織委員会が主催団体である。しかし, IGCは, 地質科学関連の国際組織である常設の国際地学連合 (International Union of Geological Science, IUGS) との密接な連係の下に開催されることとなっており, これが一種の母体機関の役割を果している。このIUGSは日本学術会議が正式に分担金を負担して加入している国際学術団体のひとつで, 分担金は米ソ仏に次ぐ第2ランクの7単位である。

日本学術会議には, この会議の共催を正式に本年末に

申し込む予定である。共催が認められる可能性は高く, そうなれば政府の公的な支援が得られることになる。

会議の規模

会議の規模は年代によって異なるが, 1800年代には20～30ヶ国, 数百人の規模であったが, 1980年代からは参加国は100ヶ国を越し, 参加者も5000人を超える規模となった。本年の第28回 (1989年7月ワシントンD.C.) では6000人以上の参加者があった。第29回会議の参加者数は予測が難しいが, 同伴者を含めておよそ5000人程度を見込んでいます。

日本国内における準備態勢

日本学術会議地質学研究連絡委員会 (前記IUGSに対するわが国の正式窓口) はIGCの日本開催について検討を重ねた後, 招致を決定して1984年にモスクワで開かれた第27回会議で招請の意志を表明し, IGC役員会で承認された。これに対応して1985年に準備委員会が組織され, 会議開催のための準備を始めた。1988年3月にアメリカ合衆国で行われたIGCの執行委員会で日本開催が再確認されたのを受けて, 1988年12月に新たに組織委員会を設置した。

1989年7月の第28回IGCにおける, 第29回の日本開催正式決定を受けて, 組織委員会傘下の会場, 学術プログラム, 巡検などの小委員会においても, 本格的な準備活動を開始している。

会議の費用概算

地質巡検参加費, 学術論文集の出版費などを除き, 会議開催のための直接的な費用はおおよそ3.5億円程度と見込まれる。登録料を差し引いて, 2億円ないし2.5億円の費用を募金する必要がある。

科学プログラム

現在科学プログラム小委員会において鋭意成案を作製中であるが, 大別してシンポジウムとポスターセッションとする。シンポジウムは3カテゴリーに分ける。

1) 特別シンポジウム

もっとも特長を発揮するシンポジウムで, 特別なテーマについて行なう学術討論会とする。

1.1) シンポジウムA: 純学術的に地球科学の先端的なテーマを取り上げる。テーマ「地球の歴史, とくに島弧ならびに活動的大陸縁辺地域の進化」。6ないし7のサブテーマについてのシンポジウムを設ける計画。

1.2) シンポジウムB: 地球科学の応用的側面を取り上げ, 人類と地球の相互作用に焦点をあてる。テーマ「人類の生き残りのための地球科学の将来」。

4程度のサブテーマについてシンポジウムを計画

中。

1.3) シンポジウムC: 国際的な研究プロジェクトの研究成果と進捗状況を取り上げる。ODP, ILP, IGBP, IDNDR, IGCPなどの大型国際研究事業について行なう予定。

2 学際シンポジウム

2以上の異なる領域にまたがるテーマについてのシンポジウム。30ないし50個のシンポジウムが提案されている。

3 領域別シンポジウム

各個の領域における現在のテーマを取り扱うシンポジウム。約25個のシンポジウムを予定している。

以上のシンポジウムの最初の提案は1990年3月配布予定の会議の第1回サーキュラーのなかで行なう計画であるが、それは固定的なものでなく、国内外の反応を考慮しつつ最終案を固めることを予定している。

地質巡検

これもIGC規約によって行なうよう義務づけられているもので、会期前、中、後にわけて行なわれる。現在巡検小委員会が鋭意コースの設定を検討中である。現在までに提案されているコース案は約90であるが、第1回サーキュラーまでにはさらに厳選した第1次案を作成する予定である。

計画中のコースは地域別(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、琉球)のものと、特定のテーマにもとづいて組み立てられるものとの2種類が計画されている。特に日本列島の特殊性に鑑み、島弧の横断面を示すようなコースを重視して計画中である。

展示会

第28回会議では、各国の政府機関、研究・教育機関、関連企業が出品していた。またこの会議で始めて展示会が一種のトレード・フェアの性格をもつようになった。次回の京都會議での展示会の性格はまだ未定の状態であるが、産業機械のようなものも含めて、日本の技術のPRに役立てるようにしたいと考えている。

その他

一般向け教養講座、同伴者プログラムは現在検討まだ具体的な検討に入っていないが、早急に第1次案を作成する予定である。

連絡先: 〒305 筑波学園郵便局私書箱第65号
第29回IGC事務局
TEL. 0298-54-3627

首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究、募集

財団法人とうきゅう環境浄化財団(会長 松尾英男)は、昭和50年度より、多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に232件の研究に助成金を交付し、170件の研究報告書を受領しています。

平成2年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

研究を専門とする方に限らず、一般のどなたでも研究に意欲のある方でしたら、奮って応募して下さい。

1. 研究について

多摩川は山梨県笠取山を水源とし、東京都と神奈川県との県境を経て、東京湾に至る138kmの1級河川です。その流域面積は1,240km²といわれています。

多摩川を浄化するためには、その流域の環境をも改善しなければ目的は達成できません。

従って、河川や地下水の水質や水量、それらと関わりにある生物相や生物群集の研究、多摩川およびその流域の地質、地形などの自然科学的研究だけでなく、土地利用・地域計画、都市化に関連する諸問題、川の歴史や文化、環境観や環境教育など広く自然科学と社会科学にまたがった研究も大いに歓迎いたします。

また、治水、利水、親水、流域改善計画に関するあらゆる領域にわたる広汎な研究を期待しております。

欧米に例をみない速さで、高齢化がすすみ人口の密集な首都圏の環境のなかで、水域と陸域の統合体である多摩川の河川からその影響圏の環境を見直してみようことは、極めて大切なことと考えます。

2. 公募締切日 平成2年1月16日

応募についての詳細は、下記財団事務局へお問い合わせ下さい。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目16番14号
(渋谷地下鉄ビル内)

財団法人 とうきゅう環境浄化財団
電話 (03) 400-9142

1989年度第二回日本地球化学会評議員会議事録

日時: 1989年6月24日 14時~17時

場所: 東京大学教養学部

出席者: 一國雅己会長、大隅多加志、小嶋 稔、小倉紀雄、木越邦彦、日下部 実、鈴木俊雄、高野穆一郎、田中 剛、角皆静男、坪田博行、中山英一郎、野津憲治、増田彰正、松葉谷 治、松久幸敬、松本英二、柳 各評議員、

I. 前回の議事録を承認した。

II. 報告事項

1. 幹事会(高野評議員)

*6月10日14:00-18:00東京大学教養学部において幹事会を開き、次回評議員会の議題の整理と検討を行った。一國会長、綿抜副会長、高野、野津、松久、石渡、小倉の各幹事が出席した。

2. 庶務(高野評議員)

*文部省に対してG.J., Vol.22, No.1-6の刊行実績報告を行った。

*文部省からG.J.Vol.23, No.1-6刊行費補助金134万円を交付する旨の内定通知があった。

*金沢で開かれた「1990 Western Pacific Geophysics Meeting」のための関係学会合同会議に松尾禎士会員がOrganizing Committee Memberとして出席した。

3. 編集

(松久評議員)

*G.J.Vol.22は印刷中である。Vol.23, No.1は印刷中である。

(石渡評議員代理高野評議員)

*「地球化学」23巻1号は7月初旬に発行する予定である。

4. 1989年度地球化学会年会

(増田評議員)

*講演申し込み総数は230-240件の見込みである。

(鈴木俊雄評議員)

*新潟大学教養部において1990年10月3, 4, 5日に開催する予定である。

5. 学術会議

*陸水研連(小倉評議員)、地球化学宇宙化学研連(増田、角皆評議員)、IGBP(松本評議員)の活動について報告があった。

小委員会の活動状況について報告があった。

6. 役員選挙

*大隅評議員から1990-91年度役員選挙の日程について報告があった。

III. 議事

1. 入退会

*入会(9名) 石橋純一郎・桂 浩史・伝法谷 宣

洋・中村栄三・細江守一・牧嶋昭夫・小方 靖史・石川剛志・フィニガン マット インスツルメンツ インク(賛助会員)

*退会(11名) 木村健二郎(名誉会員)・甘利幸子・大久保隆・加藤甲子・武内寿久弥・田中一彦・西川治光・西山 孝・原村 寛・橋本昌夫・荒川光太郎(賛助会員)

以上を承認。会員現況は以下とおり

		正会員	賛助会員	名誉会員	計
1989年	1月1日	899	12	6	917
	入会	8	1	0	9
	退会	9	1	1	11
1989年	4月30日	898	12	5	915

2. 1988年度決算について

*1989年度決算について野津会計幹事および鳥居監事より報告があり承認された。

3. 1991年度年会開催地および1990年度春季シンポジウムについて

*1991年度年会は愛媛大学で開かれることが了承された。

*1990年度春季シンポジウムは地球科学関連学会(地球電磁気・地球惑星圏学会、地震学会、火山学会、測地学会)との合同大会に参加することとした。具体的な対応は行事委員と幹事会が当たることとした。期日は4月6(金)、7(土)、8(日)の3日間である。

4. 学会協賛

*国際腐植物質学会第五回国際会議(日本腐植植物研究会、1990/8/5-11, 名古屋)に協賛することとした。

5. G.J.および「地球化学」の保管について

*各巻100部を限度として学会事務センターで保管することとした。残部の処分方法は幹事会に一任することとした。

6. 1990WPGMへの分担金について

*1990年8月日本で開催予定の国際会議(1990Western Pacific Geophysics Meeting)に対し地球化学会から10万円を限度として分担支出することとした。

7. 学会賞

*1989年度日本地球化学会奨励賞に赤木 右 会員(東大理)および三沢啓司 会員(東大核研)を選考した旨選考委員会から答申があり承認した。

*綿抜副会長を委員長とする日本地球化学会授賞規定小委員会を設定し授賞規定を再検討することとした。

(以上)

人間の科学特別委員会設置される

平成元年 8 月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る4月に開催した第107回総会において、人間の科学特別委員会を追加設置しましたが、今回の日本学術会議だよりでは、この特別委員会に加えて、最近発表された「委員会報告」等について、お知らせいたします。

人間の科学特別委員会の設置

本会議は、本年4月に開催した第107回総会において、それまでにすでに設置していた7特別委員会のほかに、「人間の科学特別委員会」の追加設置を決定した。

この人間の科学特別委員会は、同総会中に、委員会の構成（各部2人ずつ計14人）を済ませるとともに、第1回目の委員会を開催する等、直ちに、その活動を開始した。委員長には、中山和久第2部会員が就任した。

今回、本会議が、この特別委員会を設置した理由は次のとおりである。

〈人間の科学特別委員会の設置理由〉

ヨーロッパの産業革命に端を発した科学技術の進歩は急速にその度を加え、かつて人類が予想もしなかった程度に物質文明を開花させたが、一方、それによって人類は、過去に見られなかった重大な危機に立たされている。科学技術の進歩は一面において物質偏重の価値観を強め、生命に対する技術介入に係る不安や、地球生態系の激しい変化を招き、社会経済環境にも様々な問題を醸し出している。

人間が創り、人間が発展させてきた科学は、本来、真理を追求し、人間の幸福に貢献すべきものであるにもかかわらず、人類の生活や自然・社会環境に混乱を招いている側面もあるのではないかとこの矛盾も感ぜられ、ここに科学者の苦悩がある。我々は今や、科学の在り方を再考し、早急に人間と科学技術との不調和を克服する視点を明らかにしなければならない。

このためには、「人間とは何か」を問い直し、「人間存在の理法」ともいうべき概念を改めて考え、そこに立脚して、科学技術と自然との調和を求め、人類進歩への展望を模索するところから始めなければならない。

人間の人間たる特質はその精神であることを思えば、人間を知性、感性の面から広く捉え、人間そのものについてのもっと深い知識と理解が強く望まれる。この立場から、人間を個体としてばかりでなく、生物学的並びに社会的集団として把握し、人間の総合理解に努める必要がある。

この特別委員会は、このように人間を学際的、総合的に把握し、人類の危機に対処することを目指すものである。

「委員会報告」2件を発表

このたび、本会議の「生命科学と生命工学特別委員会」と「化学研究連絡委員会」は、それぞれ、当面の重要問題に関する審議結果を取りまとめ、本会議運営審議会の承認を得て、「委員会報告」として発表した。各「報告」の要旨は次のとおりである。

ヒト・ゲノム・プロジェクトの推進についてー生命科学と生命工学特別委員会報告ー〔要旨〕

ヒト・ゲノムの全DNA配列決定を主たる目標とするヒト・ゲノム・プロジェクトは、極めて大きなインパクトを学術研究に与えると期待され、我が国として早急かつ重点的に推進すべきである。そのためには推進組織を設け、基本計画の立案、実施計画の策定、省庁間などの協議、国際協力、データ・ベースとレポジトリ整備などを総合的に行うべきである。一方この推進組織と並んでこれと密接に連携し、研究計画の実施に伴う社会的・法律的・倫理的諸問題を客観的・公正に判断することを目的とするチェック機構を設立し、調和のとれた施策を進める必要がある。

大学等における化学の研究環境の整備についてー化学研究連絡委員会報告ー〔要旨〕

化学研究連絡委員会は、昭和63年に発表された日本化学会報告書を参考資料として、大学等における化学分野の研究環境の現状について検討を行った。その結果、「全国的視野に立つ化学の新しい研究体制」の実現に向けての努力を傾注するとともに、現行の研究環境を抜本的に改善するために、関係方面に強く訴えるべきであるとの結論に達した。日本化学会報告書に盛られている数項目の重点施策のうちでも、特に、①先端研究設備の購入・維持予算の大幅増額、②研究基盤整備のための大学院関連予算の充実、③化学の特殊性を配慮した研究室面積の拡充、は緊急に実施すべきものと考えられる。

平成2年度共同主催国際会議

本会議は、昭和28年以降おおむね4件の学術関係国際会議を関係学術研究団体と共同主催してきたが、平成2年度には、2件増えて、次の6国際会議を開催することが、6月20日の開議で了解された。（カッコ内は、各国際会議の開催期間と開催地）。

- ◆第14回国際土壌科学会議
（平成2年8月12日～18日、京都市）
共催団体：（社）日本土壌肥科学会
- ◆第22回国際応用心理学会議
（平成2年7月22日～27、京都市）
共催団体：日本心理学会
- ◆第15回国際微生物学会議
（平成2年9月13日～22日、大阪市）
共催団体：日本微生物学協会
- ◆第11回国際数学連合総会及び第21回国際数学者会議
（平成2年8月18日～29日、神戸市他）
共催団体：（社）日本数学会他6学会
- ◆第11回国際神経病理学会議
（平成2年9月2日～8日、京都市）
共催団体：日本神経病理学会
- ◆第5回国際生態学会議
（平成2年8月23日～30日、横浜市）
共催団体：日本生態学会

国際社会科学団体連盟(IFSSO)第9回大会・総会の日本開催

国際社会科学団体連盟（IFSSO）の第9回大会及び総会が、本年10月2日(月)～7日(土)、東京六本木の国際文化会館と日本学術会議で開催される。

国際社会科学団体連盟（International Federation of Social Science Organizations, 略称 IFSSO）は、世界の社会科学の発展に貢献することを目的とする、世界各国の学士院や学術会議で構成されている、社会科学分野を代表する国際学術団体である。現在、35か国の国家会員等で構成されており、我が国では、日本学術会議が、我が国を代表して加入している。また、現在、日本からは本会議の藤井隆第3部会員がIFSSOの事務総長を務めている。

なお、IFSSOは、社会科学分野の国際学術団体の連合体（総括機関）である国際社会科学協議会（International Social Science Council, 略称 ISSC）に加入しており、ISSCの中では、国及び地域を代表する機関という位置付けもっている。

今回の会議には、IFSSOに加入している各国の学士院や学術会議の代表、並びに関係する国際機関、国際学術団体の代表など、50を超える国々から約300名（うち、外国人は約150名）の科学者等が参加する。

この会議では、メインテーマ「変容する世界の学術政策」の下に、「研究・訓練体制の改革」、「既存領域を超える新分野」、「社会と科学・技術のインターフェイス」及び「国際協力のアカデミック・インフラストラクチャー」の4つのサブテーマが設けられ、多方面から世界の学術政策の変化が論じられる。

また、この会議では、特に、3つの日本セッションが設けられ、「急激な科学技術の進歩」について、①人間に与えるインパクト、②法律や政治に与えるインパクト、③社会経済システムに与えるインパクト、という3つの視点から

論じられ、日本の先端研究が広く紹介されることになっている。

■本件問い合わせ先：〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1、上智大学心理学研究室内、国際社会科学団体連盟第9回大会日本組織委員会事務局、電話 03-238-3811

日本学術会議主催公開講演会開催のお知らせ

本会議では、毎年、学術の成果を広く国民に還元するという日本学術会議法の主旨に沿うための活動の一環として、公開講演会を開催しています。

このたび、下記の2つの公開講演会を開催することにしました。多数の方々の御来場をお願いします。

I 公開講演会「人間は地球とともに生きられるか」

●日 時：平成元年10月27日(金)13時30分～17時

●演題と講演者（カッコ内は所属部）

- ①「地球の温暖化とその影響」：吉野正敏（第4部）
- ②「地球環境と農業のかかわり」：久馬一剛（第6部）
- ③「地球環境の経営と人間社会の発展」：藤井 隆（第3部）

II 公開講演会「“人権の歩み”から何を学ぶかーフランス人権宣言100年を記念してー」

●日 時：平成元年11月18日(土)13時30分～17時

●演題と講演者（カッコ内は所属部）

- ①「“人権” 以前の世界」：弓削 達（第1部）
- ②「近代日本の人権思想 ー自由民権運動の人権論を中心にー」：大石嘉一郎（第3部）
- ③「科学技術と人権」：杉本大一郎（第4部）
- ④「人権の進化と創造」：南 博方（第2部）

●会 場：日本学術会議講堂（両講演会とも）

（東京都港区六本木7-22-34）

（地下鉄千代田線、乃木坂駅下車1分）

◆申込方法：往復はがき（住所、氏名、郵便番号を明記）

◆申込締切：各開催日の1週間前まで（先着順、無料）

◆申 込 先：〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局庶務課講演係

■ なお、本会議では、本年度には、上記の他に、「日本の学術動向」に関する公開講演会の開催を計画しています。開催日、会場、講演者などの詳細については、決定次第、新聞広告等でお知らせする予定です。

日学双書の刊行案内

本会議の第102回総会と第103回総会で行われた、本会議会員による各自自由討議の記録を中心に編集された次の日学双書がそれぞれ刊行されました。

・日学双書 No.4 「21世紀へ向けてのエネルギー問題」

・日学双書 No.5 「食糧生産と環境」

[定価] No.4：1,500円、No.5：1,000円

（両書とも、消費税込み、送料260円）

※問い合わせ先：（財）日本学術協力財団（〒106 東京都港区西麻布3-24-20、交通安全教育センター内）

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(403)6291

1988年度決算報告

収 支 決 算 書

(自 1988年1月1日 至1988年12月31日)

収入の部

金額 (円) (予算, 円)
6,864,073 (6,600,000)

1. 会費収入

正会員 6,124,000
学生会員 268,000
賛助会員 195,000
海外会員 209,073
入会金 68,000

2. 刊行物売上 4,545,664 (4,600,000)
別刷 540,084
Back No. 4,005,580

3. 広告料 391,100 (200,000)
4. 助成金 1,340,000 (1,300,000)
5. 雑収入 42,288 (20,000)
6. 前年度名簿積立金 0 (0)
7. 前年度基本財産充当引当金

500,000 (500,000)

8. 国際会議預金利息 0 (0)
9. 前年度繰越金 10,902,998 (5,500,000)

計 24,586,123 (18,720,000)

支出の部

金額 (円) (予算, 円)

1. 事業費

1. 1. 出版費 8,577,411 (9,650,000)
印刷 6,643,350
編集 1,200,000
発送 734,061

1. 2. 行事費 409,000 (300,000)
1. 3. 学会賞経費 51,050 (40,000)
1. 4. 委員会活動費 100,000 (100,000)
1. 5. 名簿積立金 300,000 (300,000)
1. 6. 名簿作成費 0 (0)
1. 7. 事務委託費 1,349,362 (1,600,000)
1. 8. 会員業務郵税 84,326 (200,000)

小計 10,871,149 (12,190,000)

2. 管理費

2. 1. 庶務費 200,000 (200,000)
2. 2. 会議費 111,080 (200,000)
2. 3. 通信費 1,200 (30,000)
2. 4. 旅費 225,000 (300,000)
2. 5. 選挙費 0 (0)
2. 6. 雑費 43,680 (80,000)
2. 7. 会誌保管料 171,600 (171,600)

小計 752,560 (981,600)

3. 予備費 0 (500,000)
4. 基本財産充当引当金 500,000 (500,000)
5. 次年度繰越金 12,462,414 (4,548,400)

計 24,586,123 (18,720,000)

賃借対照表

(1988年12月31日現在)

資産の部

現金 13,197円
預金 11,521,785
学会事務センター 5,555,432

計 17,090,414

負債・正味財産の部

負債 4,628,000円
前受会費 3,828,000
名簿積立 300,000
基本財産充当引当金 500,000

正味財産 12,462,414

計 17,090,414

1989年度会計中間報告 (1989年6月30日現在)

収入の部

科目	金額 (円)	予算額
1. 会費収入	6,164,600 (6,800,000)	
2. 刊行物売上	2,766,452 (4,600,000)	
3. 広告料	0 (300,000)	
4. 助成金	0 (1,300,000)	
5. 雑収入	19,265 (20,000)	
6. 前年度名簿積立金	300,000 (300,000)	
7. 前年度基本財産充当引当金	500,000 (500,000)	
8. 国際会議預金利息	0 (0)	
9. 前年度繰越金	12,462,414 (9,500,000)	
計	22,212,731 (23,320,000)	

支出の部

科目	金額 (円)	予算額
1. 事業費		
1. 1. 出版費	3,914,443 (9,800,000)	
会誌等印刷費	2,456,893 (7,800,000)	
編集費	1,200,000 (1,200,000)	
発送費	257,550 (800,000)	
1. 2. 行事費	421,440 (500,000)	
1. 3. 学会賞経費	0 (50,000)	
1. 4. 委員会活動費	103,000 (150,000)	
1. 5. 名簿積立金	0 (0)	
1. 6. 名簿作成費	0 (600,000)	
1. 7. 事務委託費	300,000 (1,600,000)	
1. 8. 会員業務郵税	14,640 (200,000)	
小計	4,753,523 (12,900,000)	

2. 管理費

2. 1. 庶務費 200,000 (200,000)
2. 2. 会議費 71,539 (300,000)
2. 3. 通信費 6,991 (30,000)
2. 4. 旅費 391,000 (600,000)
2. 5. 選挙費 0 (80,000)
2. 6. 雑費 7,380 (80,000)
2. 7. 会誌保管料 0 (171,600)

小計 676,910 (1,461,600)

3. 予備費 0 (500,000)
4. 基本財産充当引当金 0 (500,000)
5. 次年度繰越金 (4,548,400)

計 5,430,433 (23,320,000)

1990年予算

収入の部

科目	金額 (円)	予算額	増減
1. 会費収入	6,800,000 (6,800,000)		0
2. 刊行物売上	4,600,000 (4,600,000)		0
3. 広告料	200,000 (300,000)		△100,000
4. 助成金	1,340,000 (1,300,000)		40,000
5. 雑収入	30,000 (20,000)		10,000
6. 前年度名簿積立金	0 (300,000)		△300,000
7. 前年度基本財産充当引当金	500,000 (500,000)		0
8. 国際会議預金利息	150,000 (0)		150,000
9. 前年度繰越金	10,500,000 (9,500,000)		1,000,000
計	24,120,000 (23,320,000)		800,000

支出の部	科目	金額 (円)	予算額	増減	2. 管理費		
1. 事業費					2.1. 庶務費	200,000 (200,000)	
1.1. 出版費	9,800,000 (9,800,000)		0		2.2. 会議費	200,000 (300,000)	△100,000
会誌等印刷費	7,800,000 (7,800,000)		0		2.3. 通信費	30,000 (30,000)	
編集費	1,200,000 (1,200,000)		0		2.4. 旅費	600,000 (600,000)	
発送費	800,000 (800,000)		0		2.5. 選挙費	0 (80,000)	△80,000
1.2. 行事費	500,000 (500,000)		0		2.6. 雑費	80,000 (80,000)	
1.3. 学会賞経費	50,000 (50,000)		0		2.7. 会誌保管料	171,600 (171,600)	
1.4. 委員会活動費	150,000 (150,000)		0		小計	1,281,600 (1,461,600)	△180,000
1.5. 名簿積立金	300,000 (0)	300,000			3. 予備費	500,000 (500,000)	
1.6. 名簿作成費	0 (600,000)	△600,000			4. 基本財産充当引当金	500,000 (500,000)	
1.7. 事務委託費	1,600,000 (1,600,000)	0			5. 次年度繰越金	9,238,400 (7,958,400)	1,280,000
1.8. 会員業務郵税	200,000 (200,000)	0			計	24,120,000 (23,320,000)	800,000
小計	12,600,000 (12,900,000)	△300,000					

編集者 鈴木 款 〒305 茨城県つくば市長峰1-1 気象研究所地球化学研究部 電話 0298(51)7111
 発行所 日本地球化学会 〒113 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル(4F)
 日本学会事務センター内 電話 東京 03 (817) 5801

日本地球化学会ニュース

No. 120

1990. II. 28

1990年度日本地球化学会春季シンポジウム

主催 日本地球化学会

日時 1990年4月7日(土) 9:00~17:45

会場 東京工業大学・大岡山キャンパス

本年度は地球惑星科学関連学会合同大会の会期中に開催されます。

コンビーナー 清水 洋・小倉紀雄

プログラム

一般講演 (9:00~11:10)

C21-01 (9:00~11:10)

水田土壌に含まれる化学成分の垂直分布

上野広行・鶴見 実・一國雅巳(東工大総合理工)

C21-02 (9:15~9:30)

東京湾堆積物(湾奥~外湾)における陸起源有機化合物の分布

高田秀重・小倉紀雄(東農工大農), 石渡良志(都立大), 才野敏郎(東大海洋研)

C21-03 (9:30~9:45)

グリーンランド氷床コア(Site J)中の有機成分:

低分子ジカルボン酸その他

河村公隆・安井 治(都立大), 藤井理行(極地研)

C21-04 (9:45~10:00)

大気-水圏におけるヒ素及びセレン化合物の化合形態及び濃度分布

田中 茂(慶応大理工)

C21-05 (10:10~10:25)

噴火湾底層水に見られる高濃度のラジウム

—地下水の影響か

川端一史・原田 晃・角皆静男(北大水産)

C21-06 (10:25~10:40)

北部日本海溝周辺域でのウランの沈着について

成田尚史・斎藤良介・原田 晃・角皆静男(北大水産)

C21-07 (10:40~10:55)

北西太平洋3地点についての海水のREEパターンとCe, Nd同位体比

立川和代・清水 洋・増田彰正(東大理), 野崎義行(東大海洋研)

C21-08 (10:55~11:10)

顕微ラマン分光法によるいくつかの分化した隕石の構造化学

鍵 裕之(東大理), 高橋和也(理研), 清水 洋・増田彰正(東大理)

